DrawingBoard VI™
ユーザーズマニュアル

キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社

第1.07版

はじめに

弊社のデジタイザをご購入いただきまことにありがとうございます。
この GTCO CalComp DrawingBoard VIシリーズは、米国 GTCO CalComp社が開発した高精度の大型デジタイザです。
DrawingBoard VIシリーズには下記の製品があります。

A4版デジタイザ	DB6-1212	A1版デジタイザ	DB6-2436
A3版デジタイザ	DB6-1218	A0版デジタイザ	DB6-3648
A2版デジタイザ	DB6-2024	B0版デジタイザ	DB6-4460

このデジタイザには以下の特徴があります。
１）ＣＡＤ系３２種類の豊富な出力フォーマット。
２）メニューキーによるソフトウェア設定機能と３つの設定を記憶／呼出できる SAVE/RESTORE機能。
３）USBポートを標準でサポート。
４）12,700LPI(500lpmm)の高分解能と+/- 0.02inch(+/-0.0508mm)の高精度を実現（高精度版のみ）
このユーザーズマニュアルを熟読の上、設置して下さい。

保証事項

保証については、同梱の保証書を参照下さい。

電波周波数についての告知

本装置は、FCC Rules, Part 15の仕様に従ったClass Bコンピュータ用装置制限に照らし合わせて試験され、適合しています。この制限は、装置を居住地域で稼働した場合の有害な干渉に対する適切な保護策を提供するためのものです。本装置はラジオ周波数の電波を生成し、使用し、発生することがあります。本装置が適切に設置されて使用されていない場合、すなわち製造者の指示に厳密に従っていない場合、ラジオやテレビの受信に干渉を生じることがあります。ただし、個々の設置場所に於いて電波障害を発生しないことを保証することは出来ません。本装置の電源をオン／オフすることによって、本装置がラジオまたはテレビの受信に障害を与えることが確認できた場合、下記のいずれかの手段を講じて電波障害を修正することを奨励します。

・受信アンテナの方向や位置を変更する。
・本装置と受信装置の距離を離す。
・受信装置が接続されている電源コンセントと別回路の電源コンセントに本装置を接続する。
・ケーブルの方向を変えたり、巻き取る。
・必要ならば、販売店またはラジオ・テレビの技術者に相談する。

ユーザーが装置に追加するケーブルは全てFCC標準に適合するようにシールドされていなければなりません。本装置を許可なく変更すると、この装置を操作する許可を取り消されることがあります。
この装置は、第二種情報装置(住宅地域またはその隣接した地域に於いて使用されるべき情報装置)で住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)基準に適合しております。
しかし、本装置をラジオ、テレビに近接してご使用になると、受信障害の原因となることがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

注意事項

・ この製品に添付されたアプリケーション及びドライバは、GTCO CalComp社及び日本オセ社に帰属します。

・ 製品の仕様は将来予告なく変更する場合があります。

・ ソフトウェアについては万全を期すように努力をしていますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら弊社までご連絡下さい。

・ 日本オセ株式会社では、同梱のドライバ・アプリケーションを含む本製品を運用した結果、保証書に記載されている、デジタイザ本体に対する保証以外の、いかなる特殊な、付帯的、間接的もしくは付随的な利益の損失を含む運用上の影響及び傷害については、上項に関わらず責任を負いかねます。

商標

AutoCAD は、オートデスク株式会社の登録商標です。
DrawingBoard VI及びTabletWorksは、GTCO CalComp社の登録商標です。
Windowsは、米国マイクロソフト社の登録商標です。
その他、掲載されたアプリケーション名、製品名、会社名、プログラム名、システム名、及びCPU名等は、各社の登録商標または商標です。また本文中には"R"または"TM"マークは明記してません。

目　次

第１章 DrawingBoard VIの同梱品	1-1 ～1-4
第２章 デジタイザ各部名称と接続	2-1 ～2-10
第３章 TabletWorksのセットアップ	3-1 ～3-14
第４章 操作上の注意と保守	4-1 ～4-6
付録Ａ シリアル接続時のデジタイザの設定	A-1 ～A-18
付録Ｂ FAQ&問題発生時の処理	B-1 ～B-12
付録Ｃ DrawingBoard VIの仕様	C-1 ～C-2
付録Ｄ 既存機種との比較	D-1 ～D-4

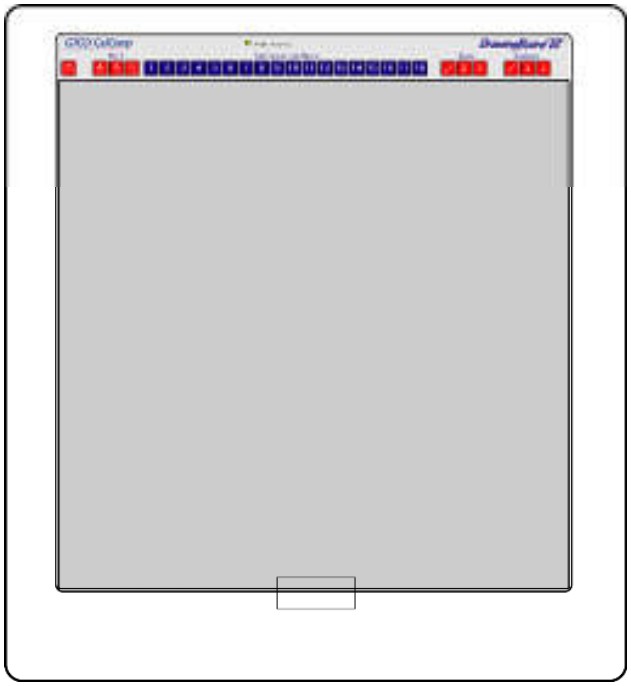
第１章 DrawingBoard VI の同梱品

DrawingBoard-VI の同梱品を説明致します。

・DB6-1212/DB6-1218

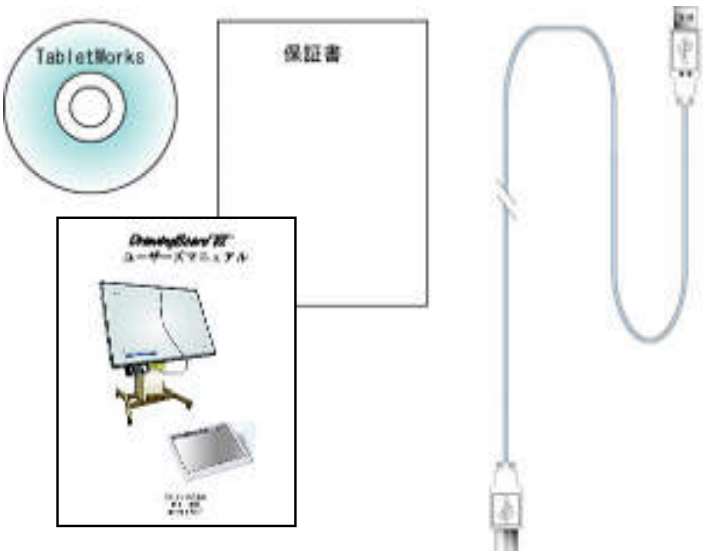
製品には、以下のものが含まれています。

・DrawingBoard-VI 本体



・ポインティングデバイス
（オプション品）
16 ボタンコードレスカーソル
等より１個選択します

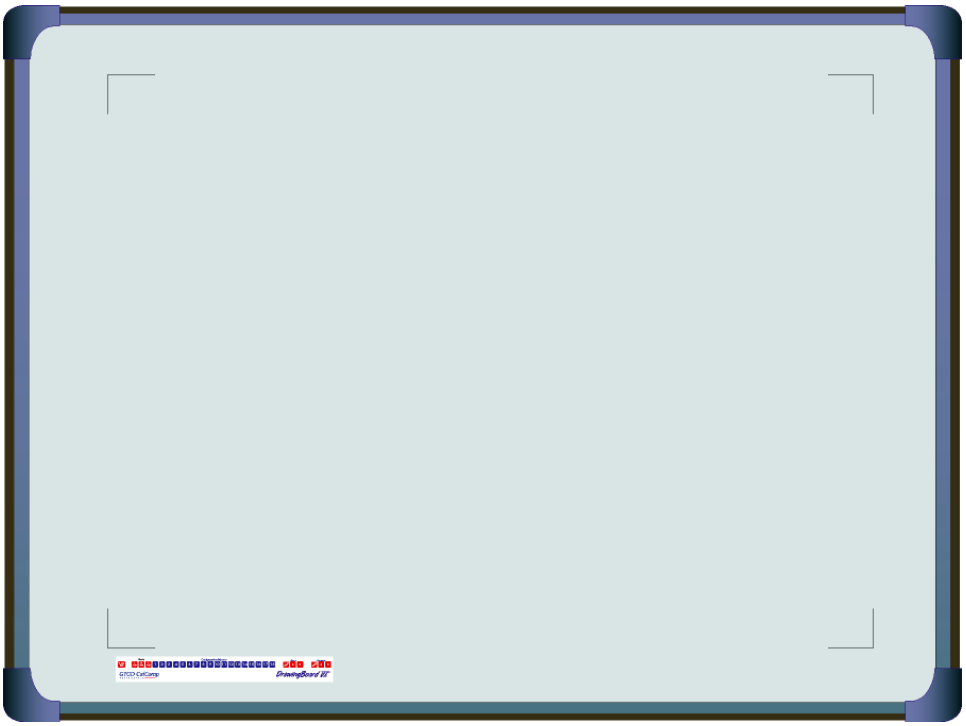
・USB ケーブル。
・ドライバ・ユーティリティ CD （US 版）
・ユーザーズマニュアル
・保証書



・DB6-2024/DB6-2436/DB6-3648/DB6-4460

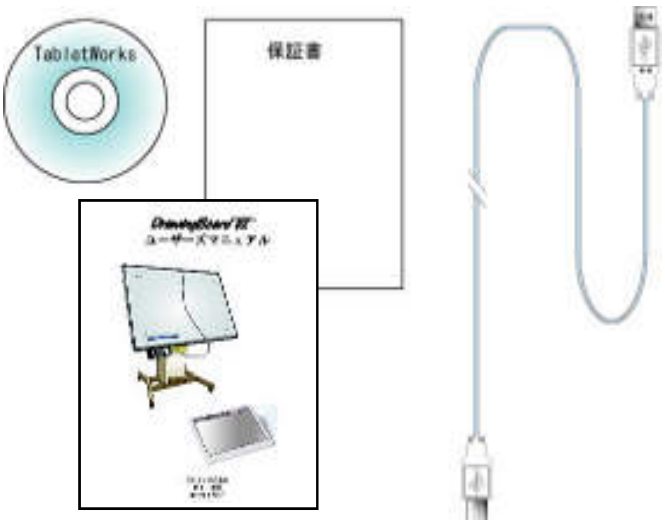
製品には、以下のものが含まれています。

・DrawingBoard-VI 本体



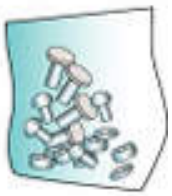
・ポインティングデバイス
（オプション品）
16 ボタンコードレスカーソル
等より１個選択します

・USB ケーブル。
・ドライバ・ユーティリティ CD （US 版）
・ユーザーズマニュアル
・保証書



・DB6-2436/DB6-3648/DB6-4460 専用付属品

・ポインティングデバイス用トレイ
・デジタイザ架台用ビス



DB6-2024 デジタイザには、右記の
架台が２個付属致します。

A1 以上のデジタイザには、下記の架台及びパーツが付属致します。

・デジタイザ架台

・架台取付用アングル

第２章　デジタイザ各部名称と接続

ここでは DrawingBoard VI の各部名称と、ＰＣへの接続方法を説明いたします。

・DB6-1212/DB6-1218

1.　デジタイザの各部名称

DrawingBoard VIの各部名称を説明いたします。

・デジタイザ側面TOP

デジタイザ側面TOPには､I/O コネクタポート､コード付きポインティングデバイス用のポート、及び電源スイッチがあります。

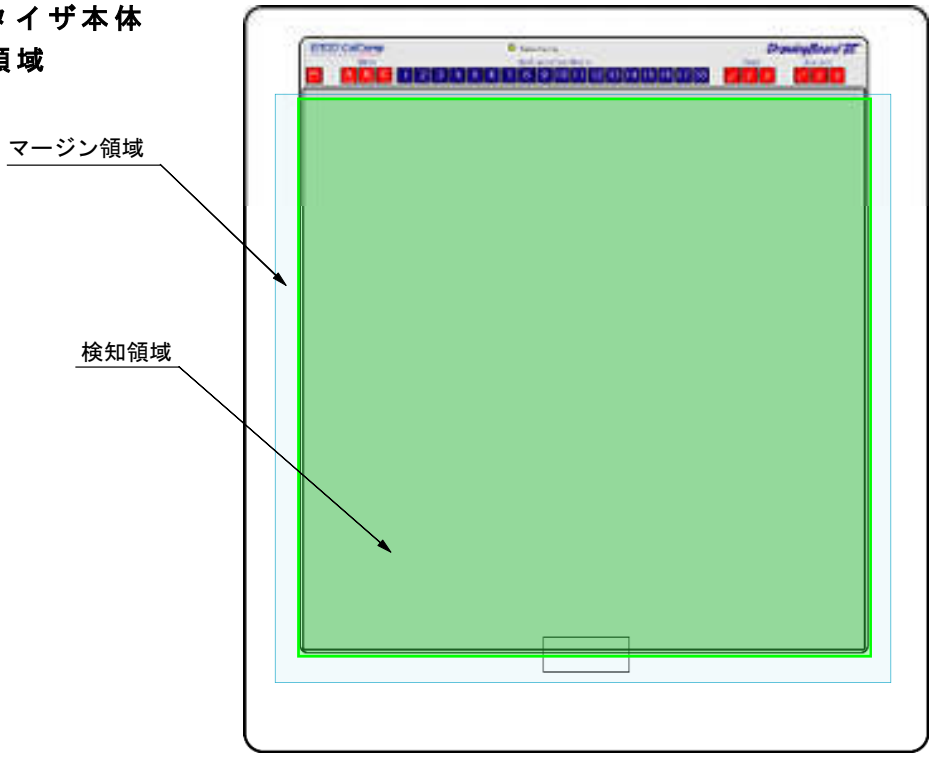
・デジタイザ上面

デジタイザ上面には、コンフィギュレーション･マクロメニュー領域と作業領域があり､透明カバーにより覆われています。

・パワー・コンフィギュレーションランプ

ここでデジタイザの現在のステータスをチェックできます。　またでデジタイザの各種設定を行うためのモニターランプも兼ねます。詳細は後述します。

デジタイザ本体
作業領域



ポインタコネクタ	コード付きポインティングデバイスを使用する場合、ここに接続します。
USB コネクタ	ＰＣに接続するＵＳＢケーブル用接続コネクタです。
電源コネクタ	DC9V 電源を繋げるコネクタです。RS232C を使用する場合は、ここから電源を供給します。USB 使用時には必要ありません。
RS232C コネクタ	ＰＣに接続するＲＳ２３２Ｃケーブル用接続コネクタです。
電源スイッチ	このボタンでデジタイザ本体の電源をON/OFF します。
パワー・コンフィギュレーションランプ	ここでデジタイザの状態を確認することが出来ます。コンフィギュレーションモードに入っていなければ、下記のようにLED が切り替わります。 １）電源オフ　ランプ消灯 ２）電源オンでポインティングデバイスが認識領域の上にない場合ランプ点滅 ３）電源オンでポインティングデバイスが認識領域の中にある場合ランプ点灯 コンフィギレーション・マクロメニューにある場合は、別章で説明します。
マージン領域	余白認識領域です。デジタイザの設定で検知領域として拡張できますが、精度の保証はありません。 また一般のアプリケーションやドライバからこの領域にアクセスは出来ません。
検知領域	デジタイザが仕様内の精度で検知できる領域です。　通常はこの領域がデジタイザの測定範囲となります。

・DB6-2024/DB6-2436/DB6-3648/DB6-4460

デジタイザの各部名称

・デジタイザ本体
この大きなホワイトボード状のものがデジタイザ本体です。実際の作業領域は盤面状に描かれたマスの内側となります。

・コントローラ
この裏側にコントローラがあります。、ここにはスイッチと、PCやコード付きデバイスとの接続用コネクタがあります。

・DB6-2436/DB6-3648/DB6-4460

・パワー・コンフィギュレーションランプ
ここでデジタイザの現在のステータスをチェックできます。

・コンフィギュレーション・マクロメニュー
ここでデジタイザの各種設定を行います。詳細は後述します。

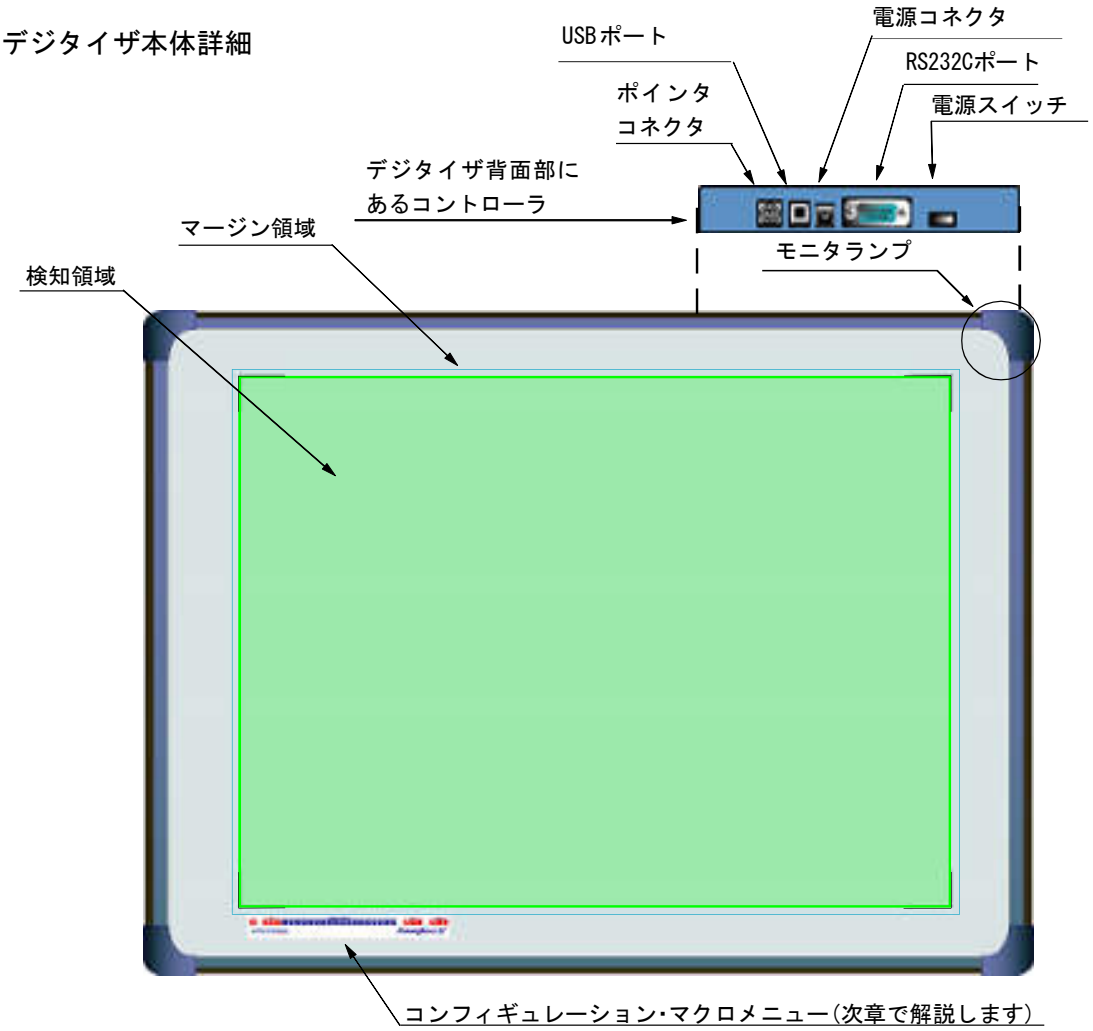
・ポインティングデバイス
図は、コード付きのポインティングデバイスです。
他に、コードレスのポインティングデバイスもあります。
DB6-2436/DB6-3648/DB6-4460のA1以上のデジタイザにはトレイが付きます。

・デジタイザ架台
(DB6-3648/DB6-4460のA1以上のデジタイザに付属)
デジタイザを載せる架台です。上下及びデジタイザの水平及び傾斜を設定することが出来ます。

・DB6-2024

・机置き用デジタイザ架台
(DB6-2436デジタイザに付属)
デジタイザを机に置く為の載せる架台です。左右両側に１個ずつ取り付けます。

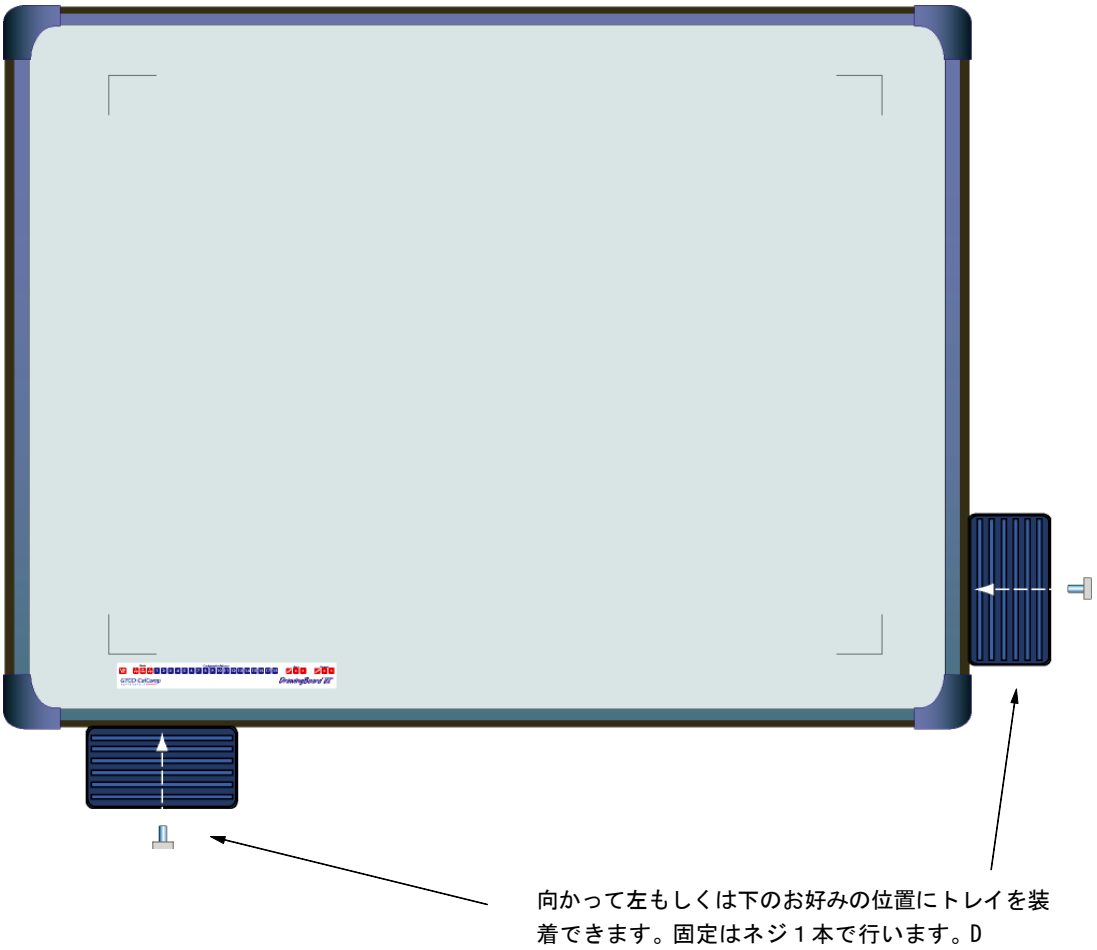
デジタイザ本体詳細



ポインタコネクタ	コード付きポインティングデバイスを使用する場合、ここに接続します。
USB コネクタ	ＰＣに接続するＵＳＢケーブル用接続コネクタです。
電源コネクタ	DC9V 電源を繋げるコネクタです。RS232C を使用する場合は、ここから電源を供給します。USB 使用時には必要ありません。
RS232C コネクタ	ＰＣに接続するＲＳ２３２Ｃケーブル用接続コネクタです。
電源スイッチ	このボタンでデジタイザ本体の電源をON/OFF します。
パワー・コンフィギュレーションランプ	ここでデジタイザの状態を確認することが出来ます。コンフィギュレーションモードに入っていなければ、下記のようにLED が切り替わります。 １）電源オフ　ランプ消灯 ２）電源オンでポインティングデバイスが認識領域の上にない場合ランプ点滅 ３）電源オンでポインティングデバイスが認識領域の中にある場合、ンプ点灯 コンフィギレーション・マクロメニューにある場合は、別章で説明します。
マージン領域	余白認識領域です。デジタイザの設定で検知領域として拡張できますが、精度の保証はありません。 また一般のアプリケーションやドライバからこの領域にアクセスは出来ません。
検知領域	デジタイザが仕様内の精度で検知できる領域です。　通常はこの領域がデジタイザの測定範囲となります。

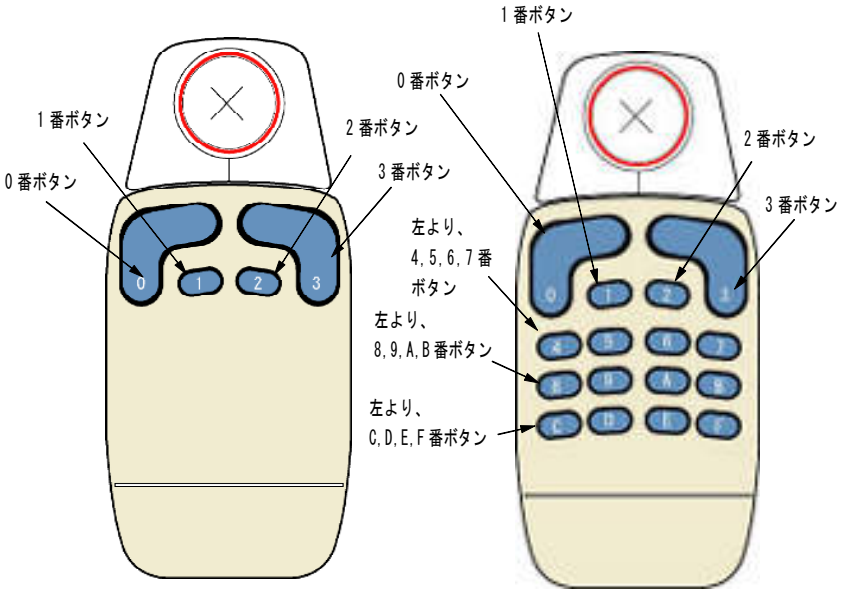
・デジタイザへのトレイの取付

DB6-2436,DB6-3648,DB6-4460では、下図のようにポインティングデバイスを置くトレイを本体に装着できます。



ワイヤレスポインティングデバイス

DrawingBoard VIで使用できるワイヤレスポインティングデバイスは下記のものがあります。



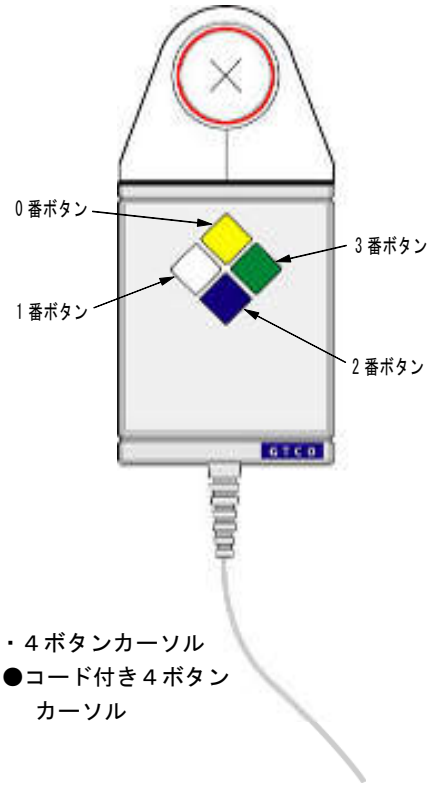
・４ボタンカーソル
●コードレス４ボタン
　カーソル

・１６ボタンカーソル
●コードレス１６ボタン
　カーソル

・ペンデバイス
●コードレス３ボタンクリックペン
●コードレス３ボタン筆圧ペン

コード付きポインティングデバイス

DrawingBoard VIで使用できるコード付きのポインティングデバイスは下記のものがあります。



・４ボタンカーソル
●コード付き４ボタン
カーソル

・１６ボタンカーソル
●コード付き１６ボタン
カーソル

・ペンデバイス
●コード付き３ボタン
クリックペン

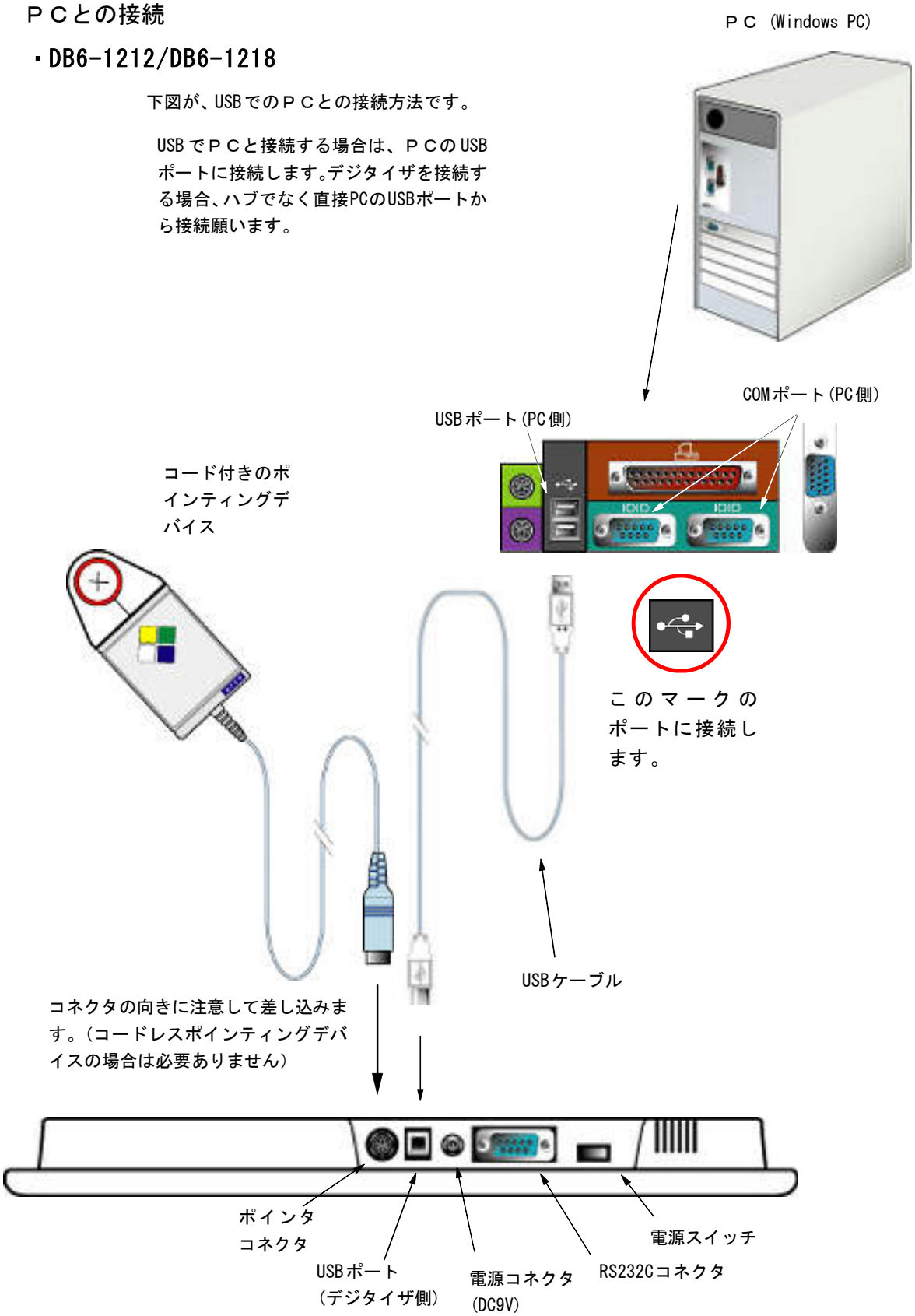
・高精度型カーソル
●高精度デジタイザ用１６ボタンカーソル
高精度デジタイザ専用ポインティングデバイスです。コード付きのみとなります。

ＰＣとの接続

・DB6-1212/DB6-1218

下図が、USBでのＰＣとの接続方法です。

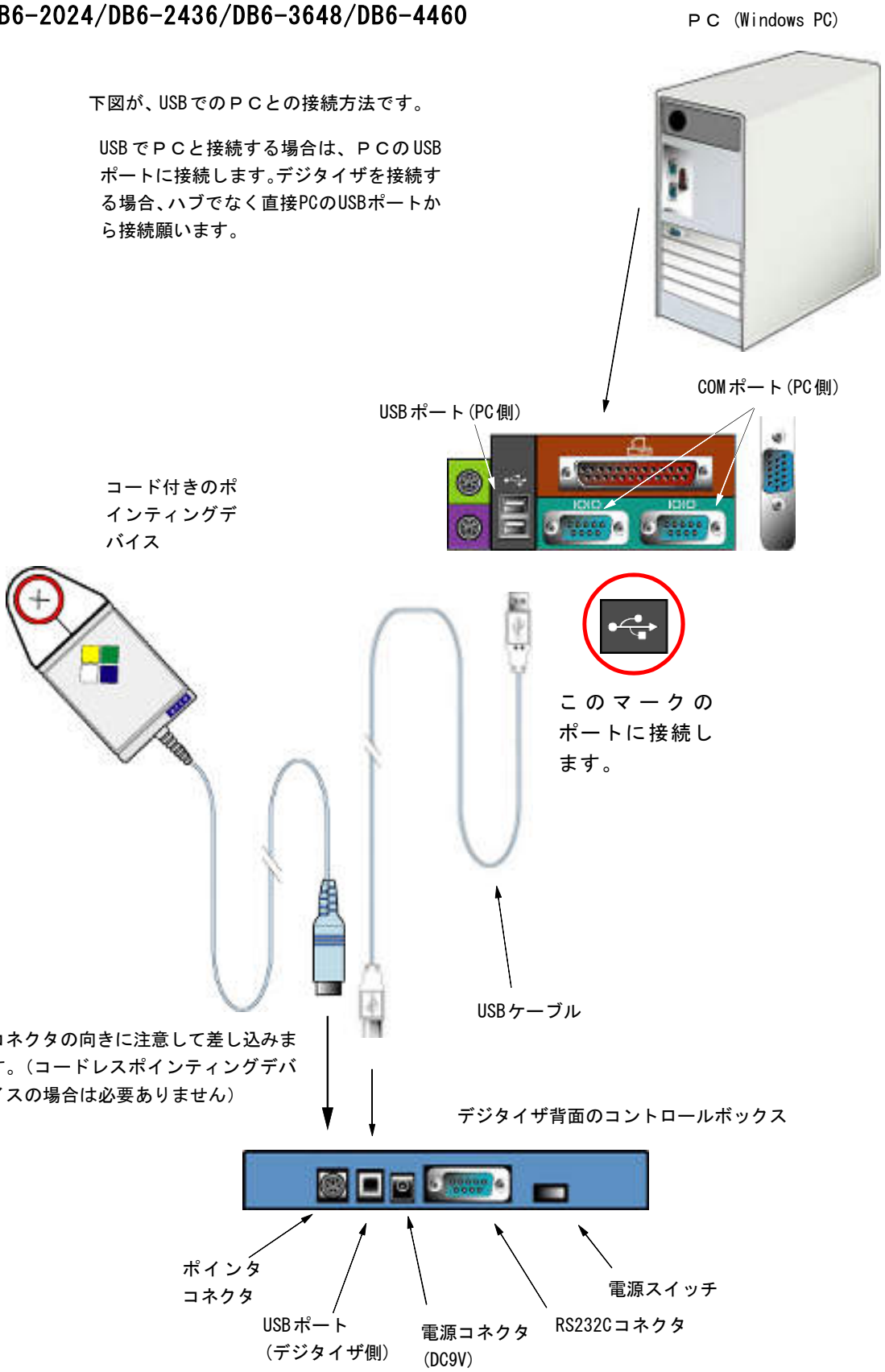
USBでＰＣと接続する場合は、ＰＣのUSBポートに接続します。デジタイザを接続する場合、ハブでなく直接PCのUSBポートから接続願います。



・DB6-2024/DB6-2436/DB6-3648/DB6-4460

下図が、USBでのＰＣとの接続方法です。

USBでＰＣと接続する場合は、ＰＣのUSBポートに接続します。デジタイザを接続する場合、ハブでなく直接PCのUSBポートから接続願います。



第３章 TabletWorks のセットアップ

この章では Windows 版の Wintab 互換デジタイザドライバである TabletWoks ドライバのセットアップ、アンインストールについて説明致します。コントロールパネルの操作については TabletWoks コントロールパネル上のヘルプをご参照下さい。

1．ドライバセットアップの前に

・USBコネクタの取り外し

ドライバをインストールする前に、デジタイザのUSBケーブルを、PCから外して下さい。

（注）DrawingBoard-VI のUSBが使用できるのは、TabletWorks ドライバだけです。TabletWorksの「Wintab」や「TabCon」の機能を使用しないアプリケーションでご使用の場合は、WinTab ドライバの組込は必要ありません。また別途オプションのシリアルインターフェースキットが必要になります。

・インストールのユーザーレベル

ドライバのインストールは、管理者権限で行って下さい。

・Windows 上のアプリケーション

セットアップを起動する前は、他のアプリケーションの実行を全て終了させて下さい。可能であれば、レジストリ監視ソフトやウィルス駆除、セキュリティ監視ソフトの起動も停止して下さい。

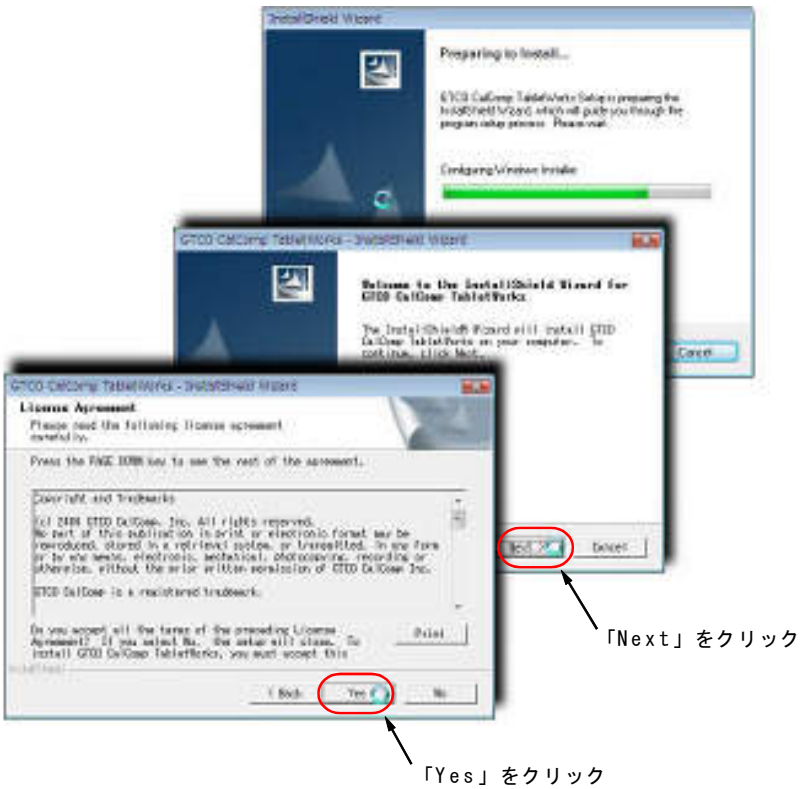
（注）
Macintosh上の Windowsは、サポート致しません。

２．ドライバのインストール

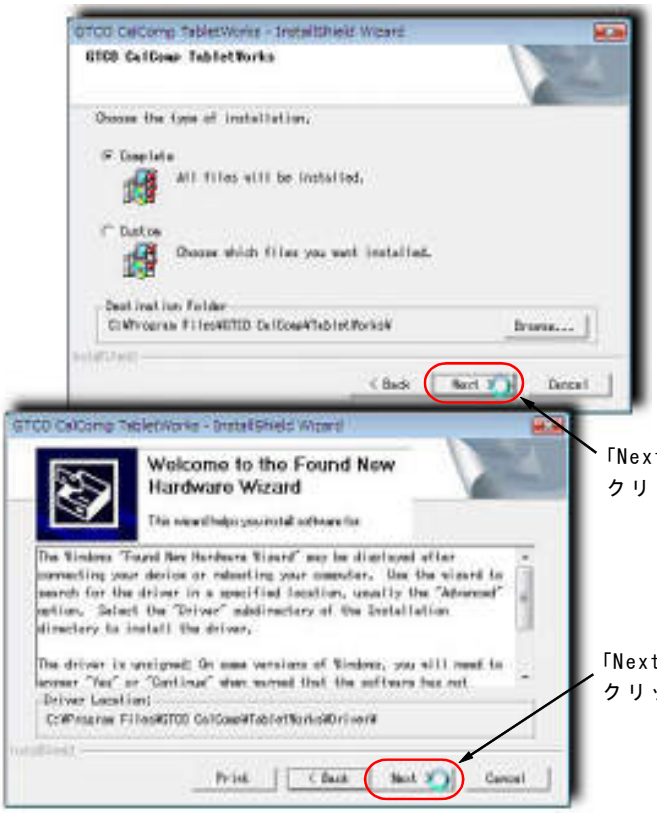
デジタイザ付属のCD-ROMをPCのCD-ROMドライブに挿入し、ドライバをインストールします。　また、GTCO CalComp社のウエブには最新のドライバが掲載されていますので、このウェブから最新のドライバを入手することが可能です。

１）デジタイザ付属のCDを入れますと、「自動再生」のダイアログが表示されますので、「Setup.exe の実行」をクリックして下さい。TabletWorks インストールのダイアログが表示されますので、「Install TabletWorks」をクリックします。

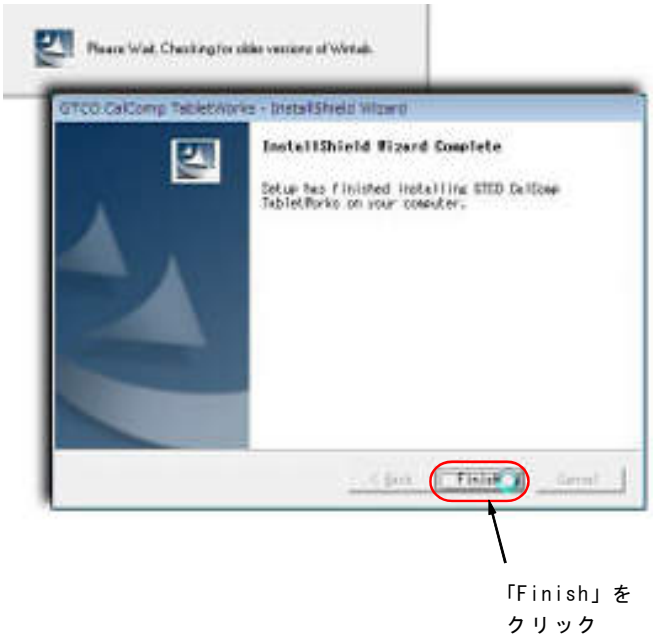
２）Windows Installer が起動し、TabletWorks のインストールが開始されます。「Welcom to the InstallShield Wizard for GTCO CalComp TabletWorks」のダイアログが開きますので、「Next」で次へ進み、「License Agreement」ダイアログで「Yes」をクリックして下さい。



3）「Choose the type of installation」のダイアログが表示されますので、通常は「Complete」を選択し、インストールフォルダもデフォルトで問題なければ、「Next」をクリックして下さい。次に「Welcome to the Found New Hardware Wizard」ダイアログが開きますので、「Next」をクリックします。



4） ここで旧ドライバのチェックやドライバ本体のコピーが行われ、インストールが終了すると、「InstallShield Wizard Complete」と表示されますので、「Finish」をクリックして下さい。

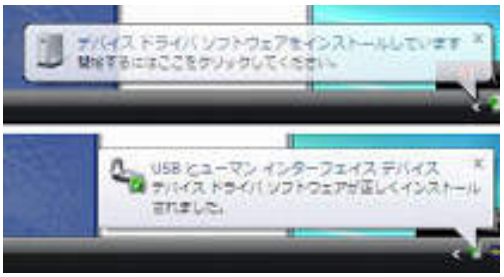


３．コンピュータとの接続

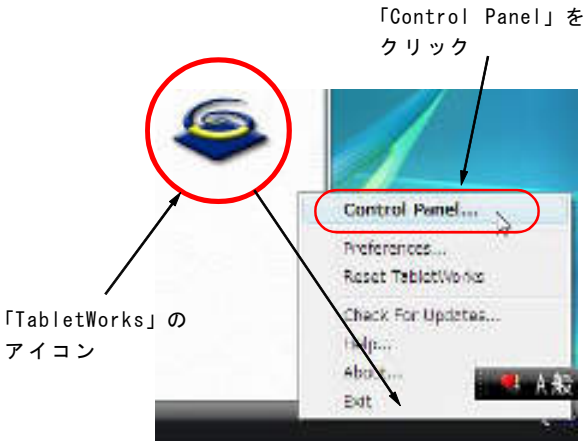
ドライバのインストール後、デジタイザを接続します。

１） デジタイザの電源を入れ、PCのUSBポートにデジタイザのUSBコネクタを接続します。

２） Windowsが自動的にデジタイザを認識し、ドライバをインストールします。



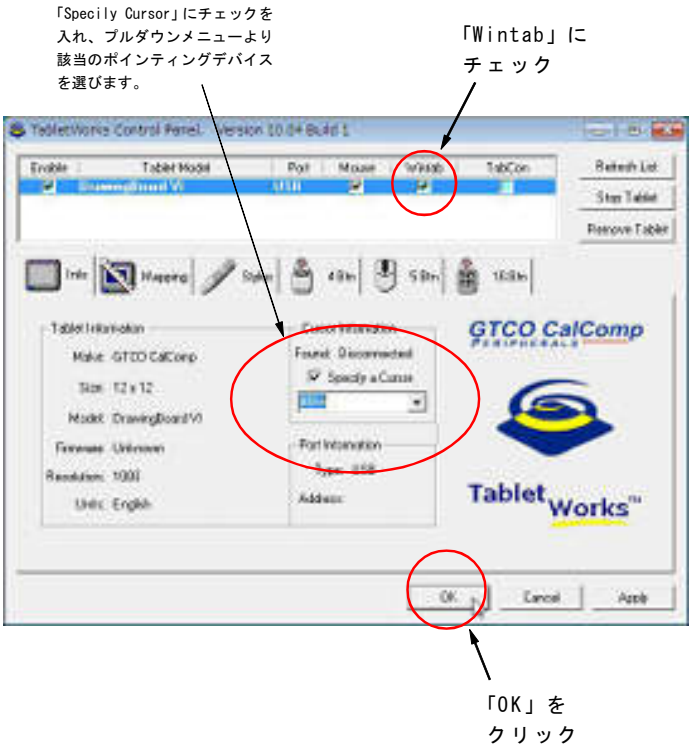
３） 組込が終了したら、タスクトレイにあるタブレットワークスのアイコンを右クリックして「Control Panel」を表示して下さい。



4．ドライバの設定

デジタイザが認識されたら、タスクトレイより TabletWorks Control Panel を開き、ドライバの設定を行います。

1） インストール後､タブレットワークスのダイアログを開きます。デフォルトでは「Wintab」機能はオフになっていますので、チェックして下さい。
また、デフォルト設定では、ポインティングデバイスをペンと認識していますので､「Specily Cursor」にチェックを入れ、プルダウンメニューより該当のポインティングデバイスを選択して下さい。
これらの設定が終わったら、「OK」をクリックしてControlパネルを閉じます。
これでWintab機能が使えるようになります。



（注）TabletWorksの「Wintab」機能はパテントの制約により、Wintab1.0仕様に準拠となっています。 Wintab1.1仕様のアプリケーションでお使いになる場合は､「Digitizer Technology Company LLC」(URL:http://www.vtablet.com)の「Virtual Tablet Interface」(有償アプリケーション)をお使い下さい。ただし「Virtual Tablet Interface」はシリアルポートのみのサポートとなりますので､別途オプションのシリアルインターフェースキットが必要になります。

2） 各タグの機能

・デジタイザリスト

接続されているデジタイザの１覧を表示します。

デジタイザが複数接続されている場合、ここをチェックすると、チェックされたデジタイザが有効になります。ただし２台以上チェックされている場合は、どちらか一方しか認識されません。

接続されているデジタイザのモデルを表示します。

接続されているデジタイザのポートを表示します。

ここをチェックすると、Windows のマウス機能の有効無効が設定出来ます。

ここをチェックすると、Wintab機能の有効無効が設定出来ます。

ここをチェックすると、TabCon 機能の有効無効が設定出来ます。

このボタンを押すと、接続されているデジタイザの再検索を行います。

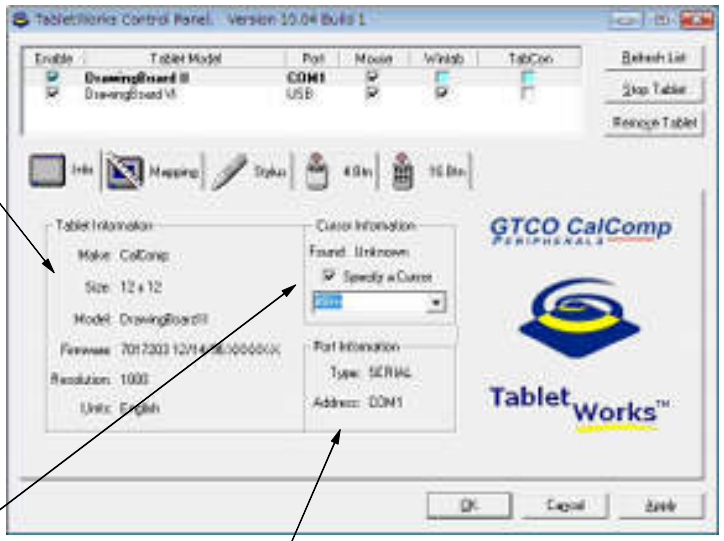
このボタンを押すと接続されているデジタイザを一旦停止させます。

このボタンを押すと接続されているデジタイザを削除します。

・ Info タグ

接続されているデジタイザの情報が表示されます。またここで全体的な設定を行う事が出来ます。

接続しているデジタイザのタイプ、サイズ、ファームウエアバージョン等を表示します。ファームウエア情報は、シリアルのみ有効で、USB の場合は 「UnKnown」となります。



デジタイザの接続されているポインティングデバイスを設定します。デフォルトはスタイラスペンです。ここで設定されたポインティングデバイスの動作モード、割付範囲、ボタン割付機能が有効となります。

接続されているデジタイザのポート情報を表示します。

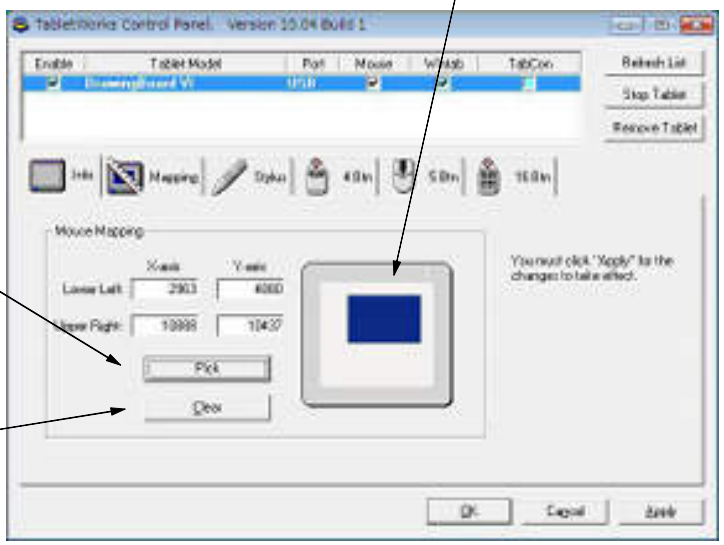
・ Mapping タグ

接続されているデジタイザの領域設定を行う事が出来ます。

設定された領域が青く表示されます。

「Pick」キーを押すと、接続しているデジタイザの左上、右下を順番にクリックすると、ポインティングデバイスの動作領域を設定出来ます。これは各ポインティングデバイスタグのエリアマッピングをチェックすると有効になります。

「Clear」キーを押すと、設定した動作領域を開放する事が出来ます。



・ Stylus タグ

接続されているデジタイザのスタイラスペンの設定を行う事が出来ます。

Windows のマウスモードの設定を行います。

Relativeの場合は、通常のマウスと同じ相対モードで動作します。Absoluteの場合は、画面と１対１の絶対モードで動作します。

Enable Mappingにチェックして「Apply」または「OK」を押すと、Mapping タグでチェックした領域設定が有効になります。

ポインティングデバイスの各ボタンに機能割り付けを行います。

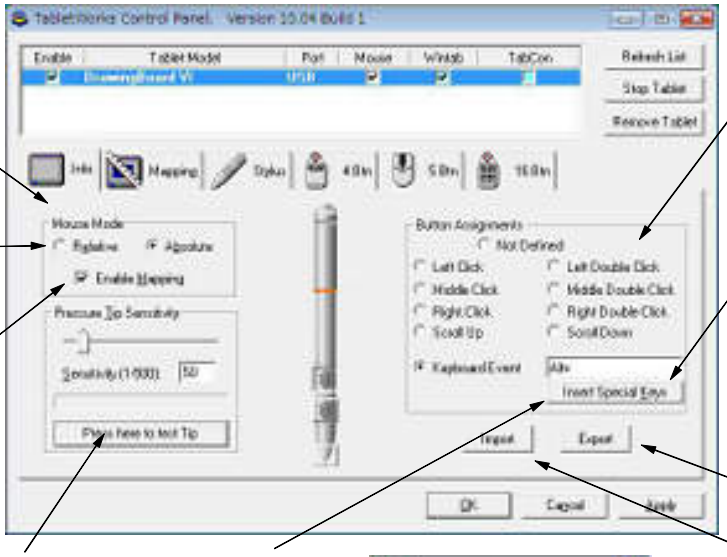
ボタンにキーボード入力を割り付ける時に使用します。

定義したキー設定を出力します。

定義したキー設定を入力します。

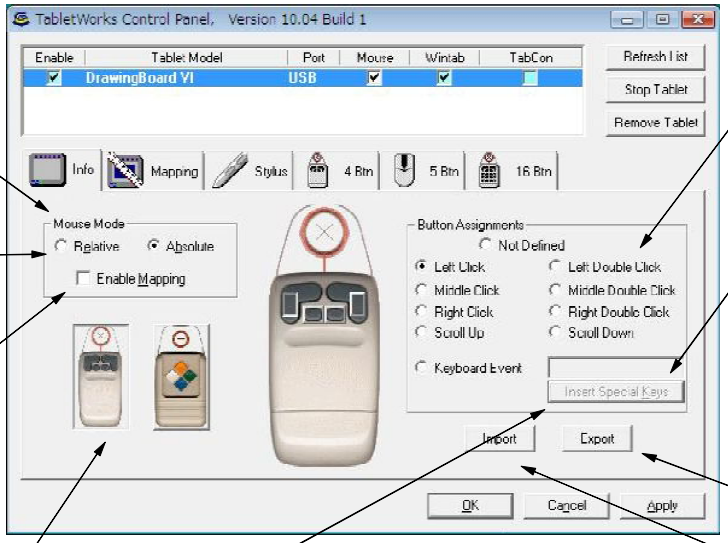
筆圧感度設定を行います。ここでクリック筆圧の調整が出来ます。

特殊なキーを設定する時、このボタンを押すと右記のダイアログが表示され特殊キー入力を設定する事が出来ます。



・ 4Btn/16Btnタグ

接続されているデジタイザのカーソルの設定を行う事が出来ます。



Windowsのマウスモードの設定を行います。

Relativeの場合は、通常のマウスと同じ相対モードで動作します。Absoluteの場合は、画面と１対１の絶対モードで動作します。

Enable Mappingにチェックして「Apply」または「OK」を押すと、Mappingタグでチェックした領域設定が有効になります。

カーソルタイプを選択します。コードレスの場合は左のストレートタイプを、コード付きの場合は右のダイヤカーソルタイプを選択して下さい。

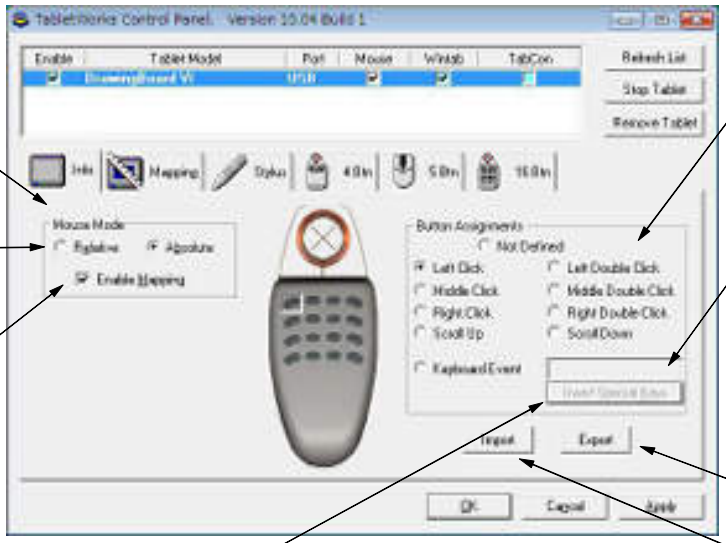
特殊なキーを設定する時、このボタンを押すと右記のダイアログが表示され特殊キー入力を設定する事が出来ます。

ポインティングデバイスの各ボタンに機能割り付けを行います。

ボタンにキーボード入力を割り付ける時に使用します。

定義したキー設定を出力します。

定義したキー設定を入力します。



Windowsのマウスモードの設定を行います。

Relativeの場合は、通常のマウスと同じ相対モードで動作します。Absoluteの場合は、画面と１対１の絶対モードで動作します。

Enable Mappingにチェックして「Apply」または「OK」を押すと、Mappingタグでチェックした領域設定が有効になります。

特殊なキーを設定する時、このボタンを押すと右記のダイアログが表示され特殊キー入力を設定する事が出来ます。

ポインティングデバイスの各ボタンに機能割り付けを行います。

ボタンにキーボード入力を割り付ける時に使用します。

定義したキー設定を出力します。

定義したキー設定を入力します。

５．ドライバのアンインストール

ドライバのアップデートを行う場合は、現在のドライバをアンインストールしてからインストールする必要があります。

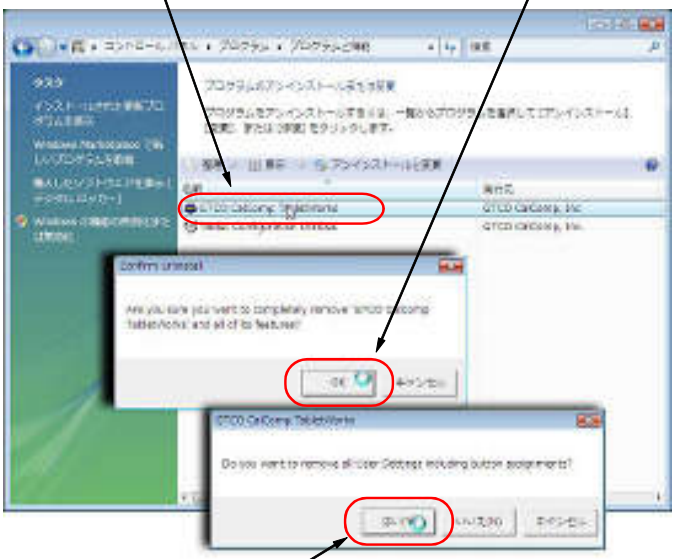
１）スタートより「コントロールパネル」を開き「プログラム」より「プログラムのアンインストール」をクリックします。

「プログラム」より「プログラムのアンインストール」をクリック

２）「プログラムのアンインストールまたは変換」より「GTCO CalComp TabletWorks」を選択しクリックします。「Confirm Uninstall」と「GTCO CalComp Tabletworks」のダイアログが表示されますのでどちらも「OK」及び「はい(Y)」ボタンを押します。

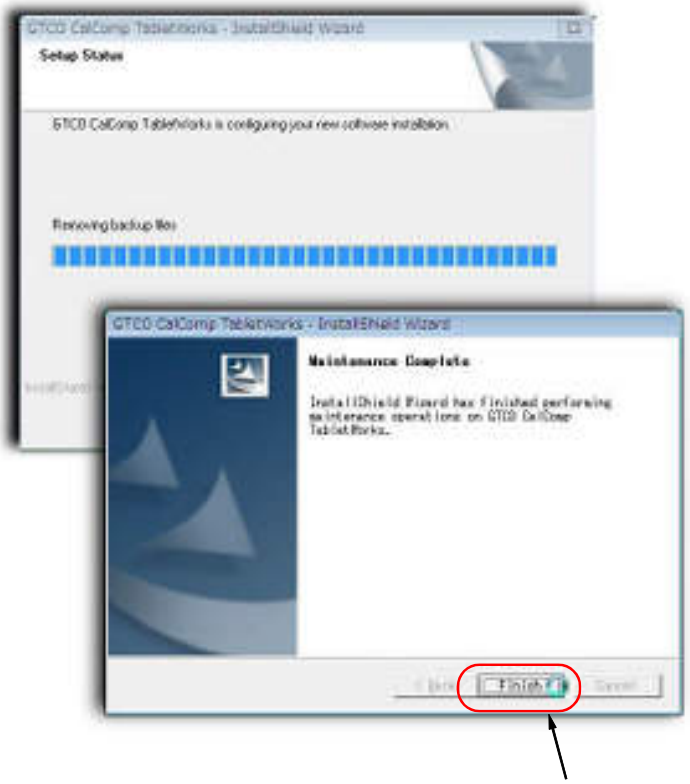
「GTCO CalComp TabletWorks」を選択

「OK」をクリック



「はい(Y)」をクリック

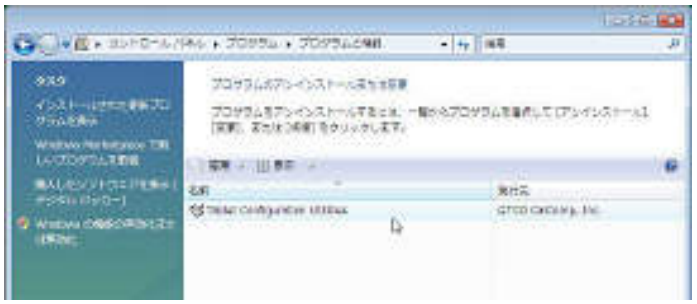
３） Setup Status が実行され、ドライバの削除が行われ、「Maintenance Complete」のダイアログが出ますので、「Finish」を押します。



「Finish」で終了

４） プログラムのリストより「GTCO CalComp TabletWorks」が削除されます。

以上でドライバは削除されました。



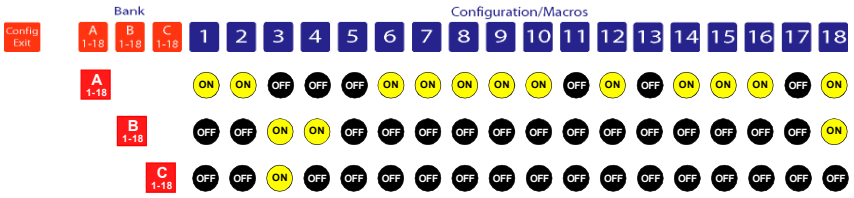
6. TabletWorks に関する FAQ

TabletWOrksがうまく動かない時は、以下の設定をご確認下さい。

・TabletWorks で使用する場合のデジタイザの設定は？

USB 接続時には設定の必要はございません。またシリアル接続の場合、デジタイザの設定は工場出荷時となりますが、TabletWorks 10.02 以降をご使用の場合はドライバが自動的に設定しますので、設定の必要はございません。

DrawingBoard VI のデフォルト設定



・Windows のアプリケーションでデジタイズできない。

下記の要因が考えられます。

1) TabletWorks コントロールパネル上の Wintab のチェックが入っていない。

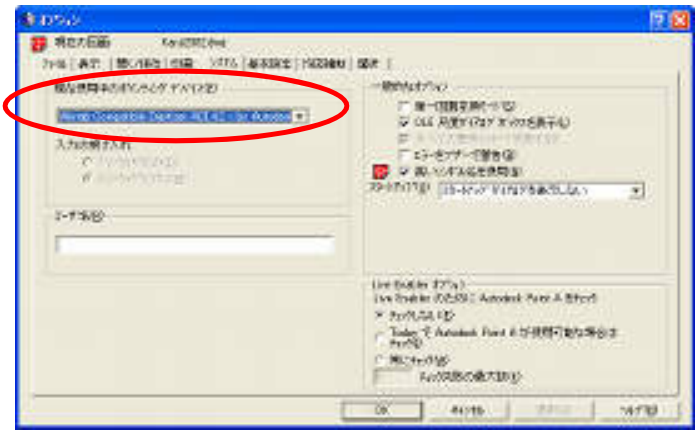
対処方法：TabletWorks コントロールパネルを開き、Wintab にチェックを入れる。

「Wintab」にチェック

2) アプリケーション側でデジタイザを使用するよう設定されていない。

対処方法：アプリケーション側でデジタイザを使うよう設定して下さい。

例として、AutoCAD では、オプションのシステム設定でポインティングデバイスを Wintab に指定する必要があります。

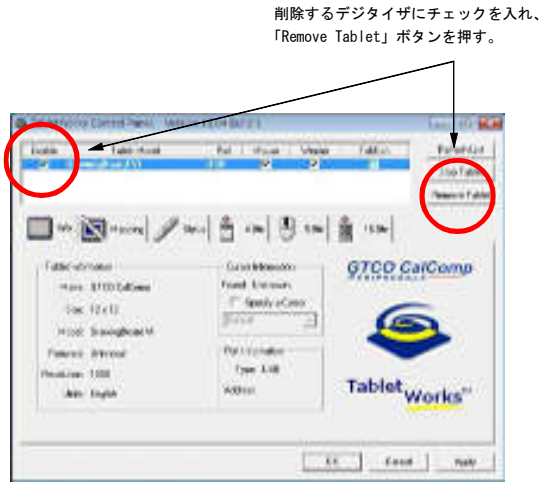


3） アプリケーションがWintab機能に対応していない。

対処方法：Wintabに対応したアプリケーションをお使い下さい。

もし Wintabに対応していないデジタイザサポートアプリケーションをご使用の場合は、おそらくシリアルよりデジタイザのデータを直接受け取るアプリケーションだと思われます。この場合はUSB 接続は使用できません。別途シリアルインターフェースキットをご購入頂き、シリアル接続でお使い下さい。その際、TabletWorksはアンインストール、もしくはTabletWorks コントロールパネル上でデジタイザをRemove してお使い下さい。

（注） TabletWorksコントロールパネル上でデジタイザのリムーブした場合は、Windows起動時に毎回再削除作業が必要になります。



4） アプリケーションのWintabサポートが Wintab 1.1仕様

対処方法：特許の問題で、現在のTabletWorksの持つ Wintab機能は v1.0仕様です。Wintab 1.1仕様のアプリケーションを使用する場合は、Tablet Incの Virtual Tablet Driver をお使い下さい。ただしこのドライバは有償です。またシリアル接続のみのサポートとなります。

例えばAutoCADのWintabも1.1仕様です。デジタイズは出来ますが、タブレットメニュー機能の全てを使用できませんのでご注意願います。

Virtual Tablet Driver をお使いになる場合は TabletWorksをアンインストールして後でインストールを行います。

・AutoCADで、正確な実長が取れない。

下記の要因が考えられます。

1） デジタイズの初期設定がなされていない。

デジタイズのCALコマンドで２または３点入力後、Limitsコマンドで領域を設定し、zコマンドで領域をA（全体）として測定してみて下さい。

2） 環境設定オプションでデジタイザとマウスではなく、デジタイザのみに設定する。

ユーザー様の環境によってはデジタイザのみで実長が取れる場合がございます。

・４ボタンや１６ボタンカーソルに設定したボタン割付が機能しない

デフォルト設定では、使用しているポインティングデバイスをスタイラスペンと認識している為、スタイラスペン以外のポインティングデバイスに割り付けたキー設定は無効となります。ボタン割付を使用する際は、「Specily Cursor」にチェックを入れ、ご使用のポインティングデバイスを設定し、「OK」または「Apply」を押して下さい。

Specily Cursor にチェックを入れ、プルダウンメニューより該当のポインティングデバイスを選びます。

・TabletWorks コントロールパネルで何らかの設定は必要ですか？

CAD アプリケーションでデジタイズやタブレット機能を主に使われる場合は、Wintab のチェック以外はデフォルト設定でお使い下さい。ボタン割付機能などを行いますと、Wintab 対応アプリケーション上でキー割付が変更もしくは使用できなくなる事がございますのでご注意下さい。

第４章　操作上の注意と保守

この章では　デジタイザを使う際のご注意事項とワイヤレスポインティングデバイスの保守について説明いたします。

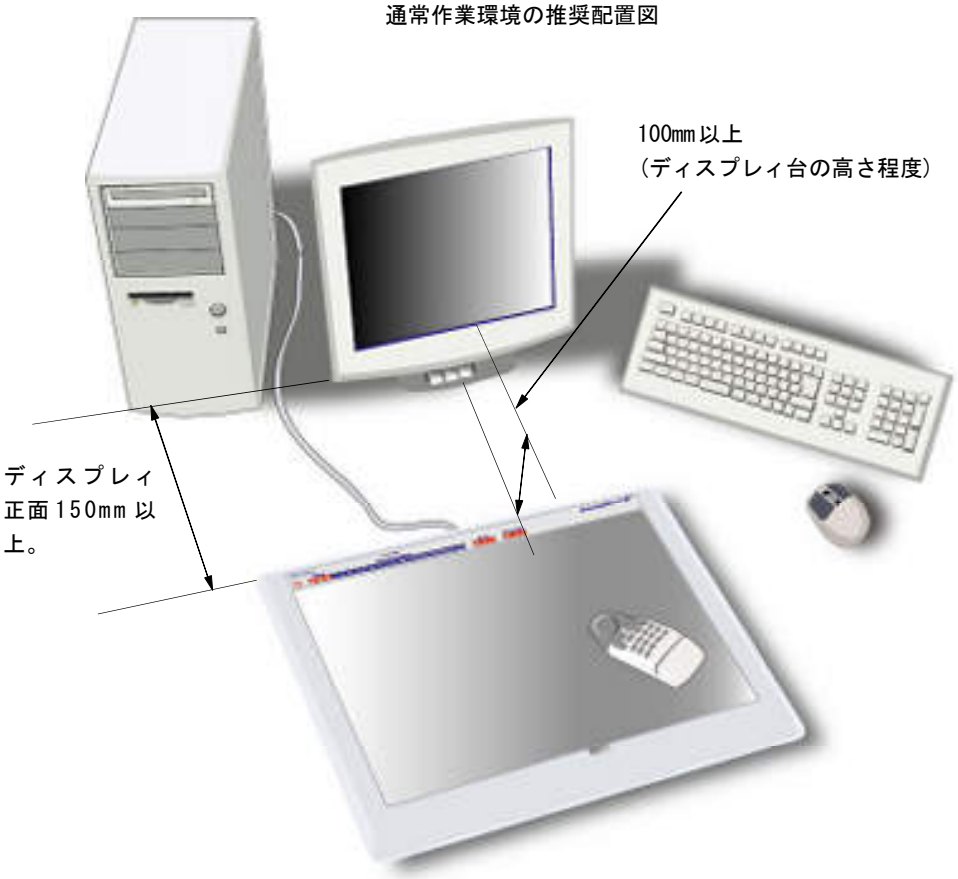
１．接続時の注意

USBケーブルや、RS232Cケーブル、ACアダプタケーブルを取り付ける場合は、必ずコネクタの部分を持って取り付けて下さい。配線部分をひっぱたりすると断線する場合があります。

２．デジタイザの設置位置

デジタイザをディスプレィやスピーカ等の磁気製品や、ハードディスクなどに近づけすぎますと、カーソルのブレなどの現象が発生する場合もございます。
メーカーや機種、環境等により影響範囲は異なりますので、下図推奨位置を参考に環境に合わせて設置位置を調整して下さい。

通常作業環境の推奨配置図



可能であればディスプレィの正面でなく、横にずらして置いて下さい。

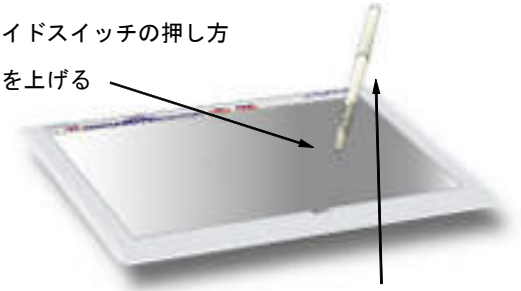
３．デジタイザの上に置けるもの

デジタイザの上に置けるものは基本的にポインティングデバイスとトレースの為の図面や写真、プラスチックゲージ等です。磁石や金属製ゲージなどの金属を置きますと磁場が曲げられ精度が出なくなったり誤動作を起こしたりします。
また重量物を乗せると、デジタイザ本体を痛める可能性がありますのでご注意下さい。
キーボード、ＣＰＵを内蔵した機器等を乗せた場合でも誤動作を起こす場合がありますのでご注意下さい。

４．スタイラスペンのサイドスイッチの押し方

スタイラスペンを使う場合、ペン先が０番ボタンになっています。TabletWorksドライバは０番ボタンからチェックしますので、０番ボタンすなわちペン先が押された状態ではサイドスイッチは認識しません。
この為サイドスイッチを押す場合は、ペン先をデジタイザ表面から浮かせた状態にして押して下さい。
またスタイラスペンを傾けすぎるとデジタイザ自身がスタイラスペンを認識しにくくなりますので、デジタイザ面に対し出来るだけ垂直になるように操作して下さい。

スタイラスペンのサイドスイッチの押し方



５．スタイラスペンの保管の仕方

スタイラスペンは、ボタンが押され続けますと電池が消耗します。
この為ペンを保管する場合は、専用のペン立てをお使い下さい。
またペン縦などに置く場合は、ペン先を上にしてボタンが押されないようにして下さい。

スタイラスペンの保管例

６．スタイラスペンの保守

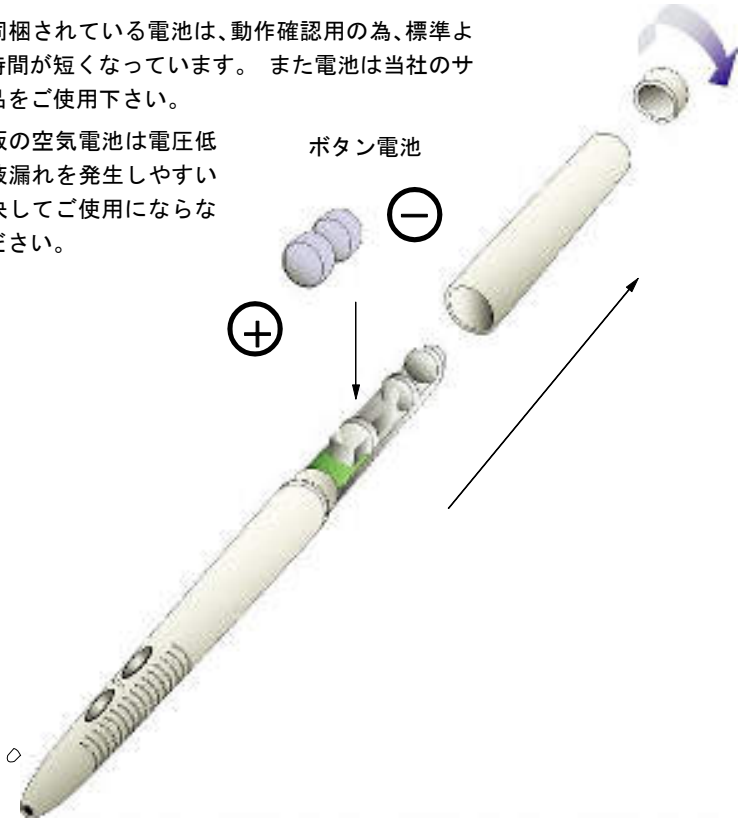
コードレススタイラスペンは電池により動作します。

・スタイラスペンの電池の取替方

１）エンドキャップを反時計方向に回し外します。
２）スタイラスペンのカバーを引き抜きます。
３）古い電池を２個とも外します。
４）新しい電池を電池ケース部の＋／－表示に合わせて差し込みます。
５）スタイラスペンのペンカバー、エンドキャップを取り付けます。

本体に同梱されている電池は、動作確認用の為、標準より使用時間が短くなっています。 また電池は当社のサプライ品をご使用下さい。

尚、市販の空気電池は電圧低下及び液漏れを発生しやすいので、決してご使用にならないでください。



・スタイラスペンのペン先の取替方

スタイラスペンのペン先は消耗品です。 適宜交換してご使用下さい。またペン先も当社で取り扱っておりますのでご利用下さい。

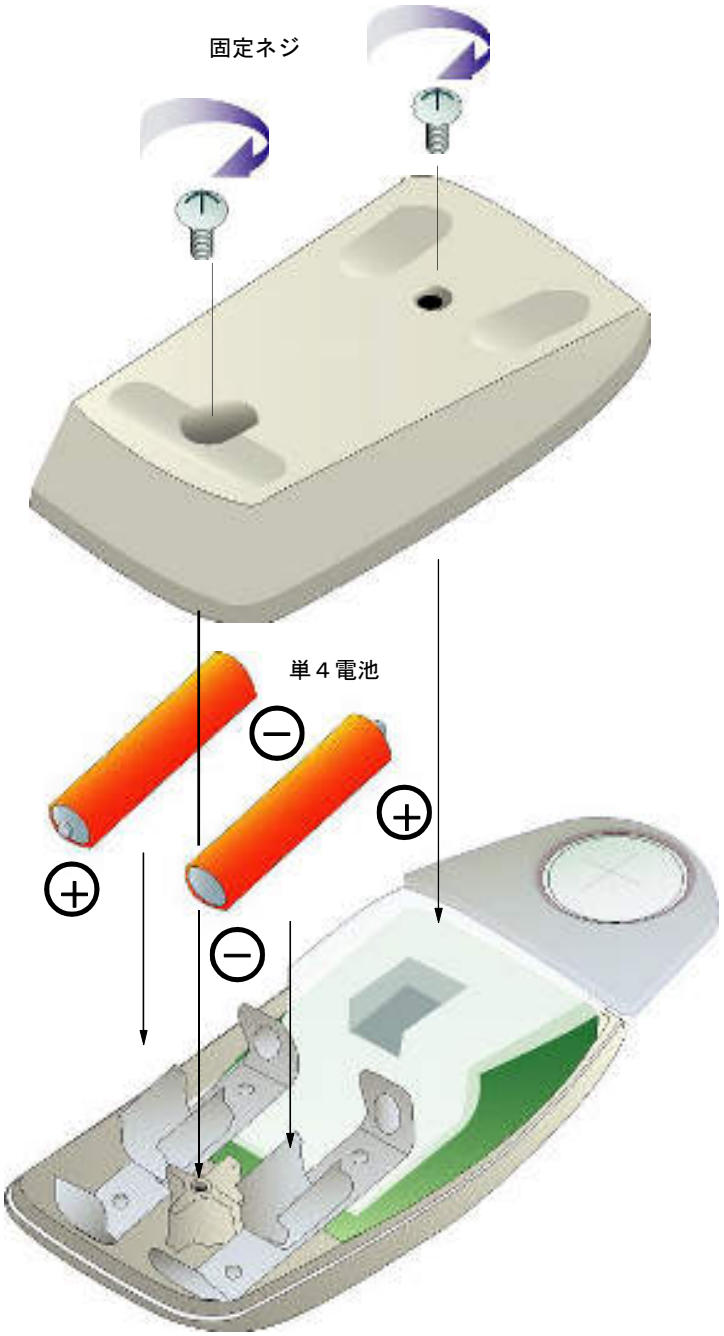
１）ペン先を手前に引き抜きます。
２）新しいペン先をペン先端が細くなっている方をペン側にして差し込んでください。

７．コードレスカーソルの保守

コードレスカーソルは電池により動作します。この電池は市販の単４アルカリ電池で代用できます。

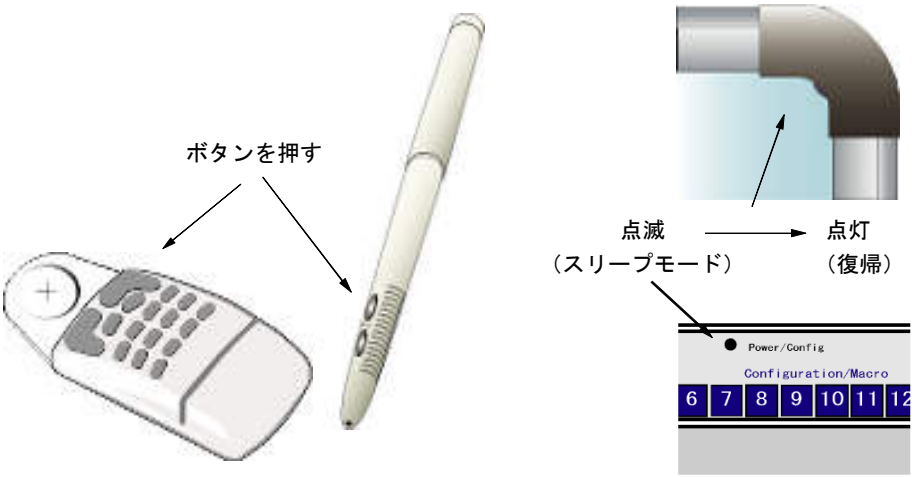
・コードレスカーソルの電池の取替方

１）コードレスカーソルを裏返し、プラスドライバでコードレスカーソル下面にある２個のネジを外し、コードレスカーソルのベースを取り外します。
２）古い電池を２個とも外します。
３）新しい電池を電池ケース部の＋／－表示に合わせて差し込みます。
４）コードレスカーソルのベースを元の通りはめ込み、プラスドライバでネジを締めます。



８．スリープモード

コードレスカーソル及びコードレスペンには電池の消耗を押さえるため、数分間ボタン入力がないと自動的に省電力モードとなります。 どれかのボタンを一つ押すことにより、スリープモードから復帰します。



９．周波数の変更

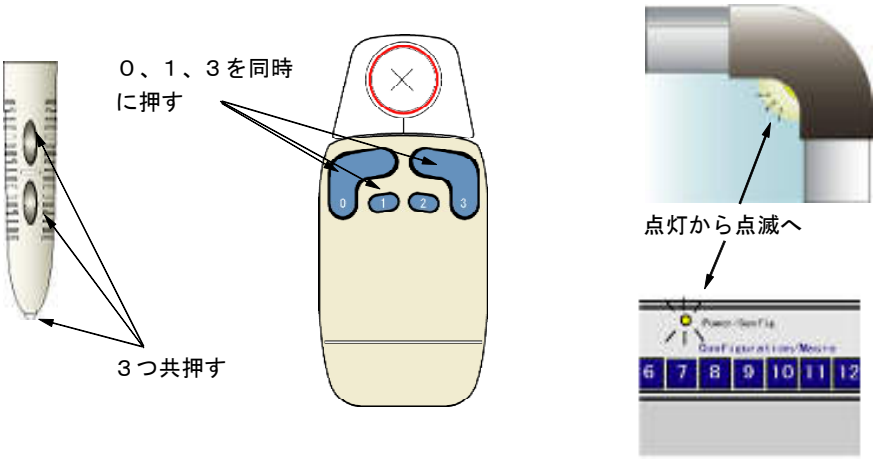
他の電磁波と干渉する場合、モニター上でポインタがぶれる場合があります。このような場合、別の動作周波数を使用することで症状を緩和させることが出来ます。

・コードレスペン

デジタイザの上でペン先を含め３つのボタンを同時に押してください。 約１０秒後に周波数が変更されデジタイザのパワー･コンフィギュレーションランプランプが点滅に変わります。

・コードレス
　カーソル

デジタイザの上で０、１、３の３つのボタンを同時に押してください。 約１０秒後に周波数が変更されデジタイザのパワー･コンフィギュレーションランプランプが点滅に変わります。



点滅に変われば、一端デジタイザから離して再度近づけて下さい。デジタイザがポインティングデバイスを認識（点灯）しますので、デジタイザの周波数設定を変更してください。 デジタイザとポインティングデバイスを同じ周波数にしないと認識不良が発生する場合がありますのでご注意下さい。また電池を外すと周波数は初期化（57KHz）されます。

付録．A　シリアル接続時のデジタイザの設定

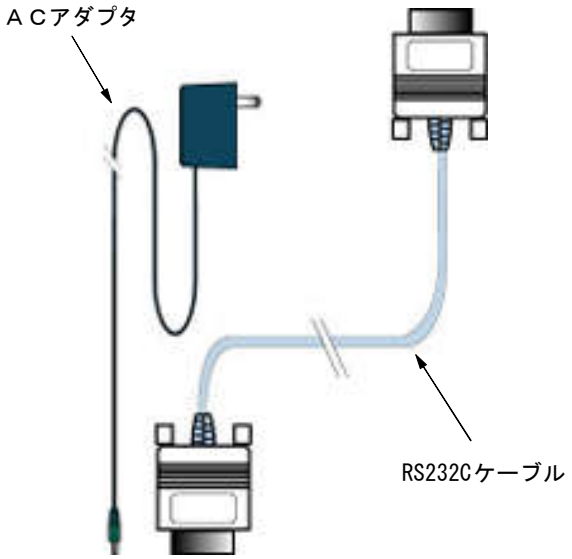
ここでは DrawingBoard VI をオプションのシリアルインターフェースキットを使用して接続した場合の設定方法を説明いたします。

1） シリアルインターフェースによる接続

DrawingBoard-VIでは、RS232Cもサポートしています。

Wintabを使用しない既設のCADアプリケーション等と接続する場合、またはWintabドライバをシリアル接続でする場合に使用します。

尚、シリアル接続をする場合は、別途オプションのシリアルインターフェースキットが必要となりますので、購入販売店、もしくは当社営業またはサプライまでご連絡下さい。

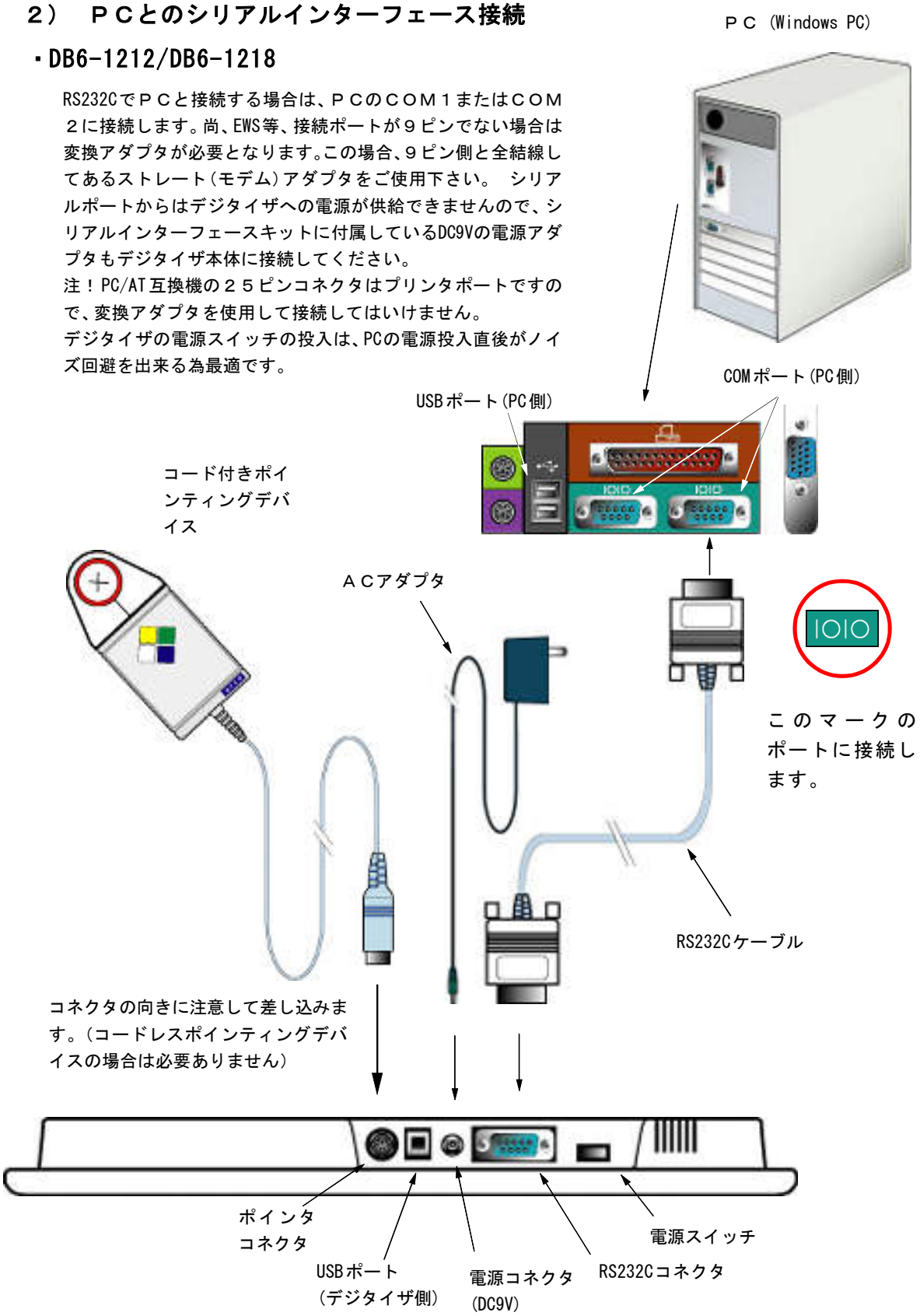


シリアルインターフェースキットの内容

２）　ＰＣとのシリアルインターフェース接続

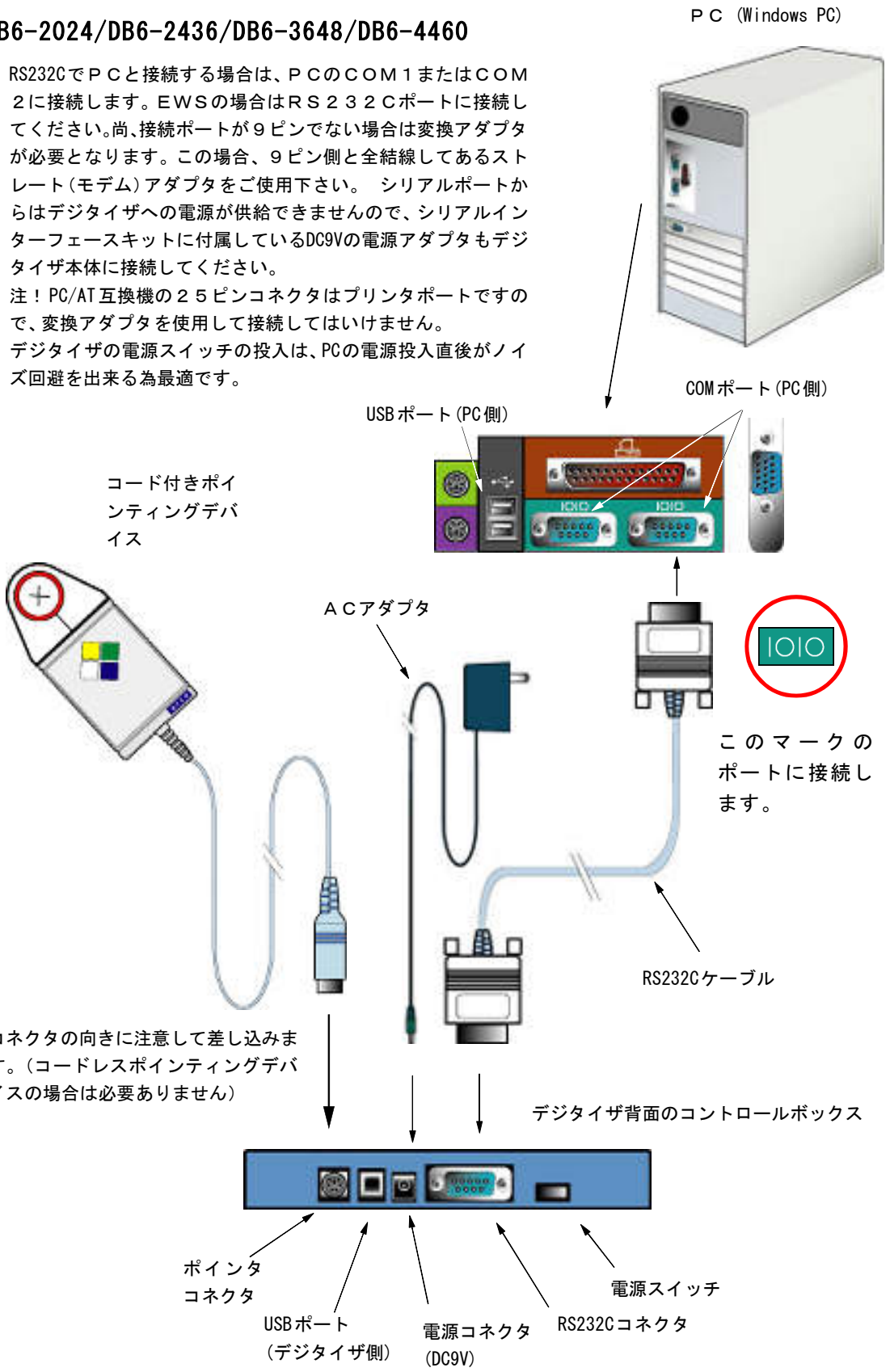
・DB6-1212/DB6-1218

RS232CでＰＣと接続する場合は、ＰＣのＣＯＭ１またはＣＯＭ２に接続します。尚、EWS等、接続ポートが９ピンでない場合は変換アダプタが必要となります。この場合、９ピン側と全結線してあるストレート（モデム）アダプタをご使用下さい。　シリアルポートからはデジタイザへの電源が供給できませんので、シリアルインターフェースキットに付属しているDC9Vの電源アダプタもデジタイザ本体に接続してください。
注！PC/AT互換機の２５ピンコネクタはプリンタポートですので、変換アダプタを使用して接続してはいけません。
デジタイザの電源スイッチの投入は、PCの電源投入直後がノイズ回避を出来る為最適です。



・DB6-2024/DB6-2436/DB6-3648/DB6-4460

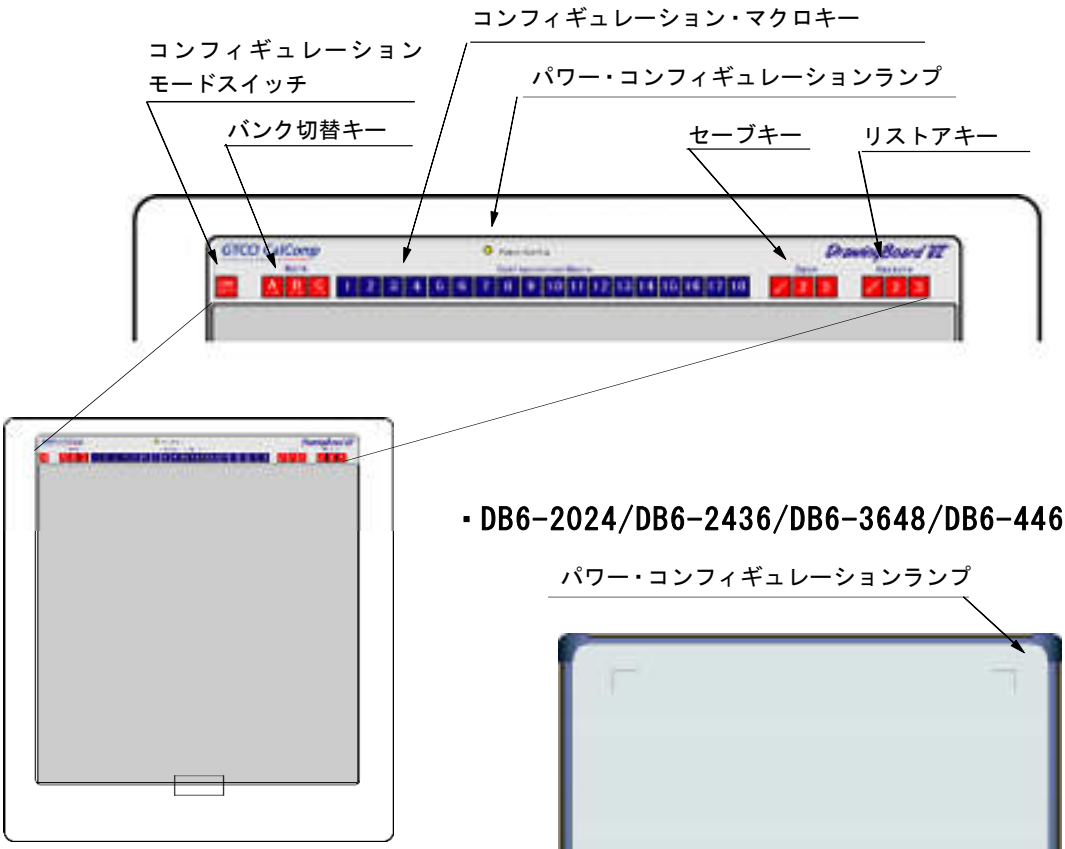
RS232CでＰＣと接続する場合は、ＰＣのＣＯＭ１またはＣＯＭ２に接続します。ＥＷＳの場合はＲＳ２３２Ｃポートに接続してください。尚、接続ポートが９ピンでない場合は変換アダプタが必要となります。この場合、９ピン側と全結線してあるストレート（モデム）アダプタをご使用下さい。 シリアルポートからはデジタイザへの電源が供給できませんので、シリアルインターフェースキットに付属しているDC9Vの電源アダプタもデジタイザ本体に接続してください。
注！PC/AT互換機の２５ピンコネクタはプリンタポートですので、変換アダプタを使用して接続してはいけません。
デジタイザの電源スイッチの投入は、PCの電源投入直後がノイズ回避を出来る為最適です。



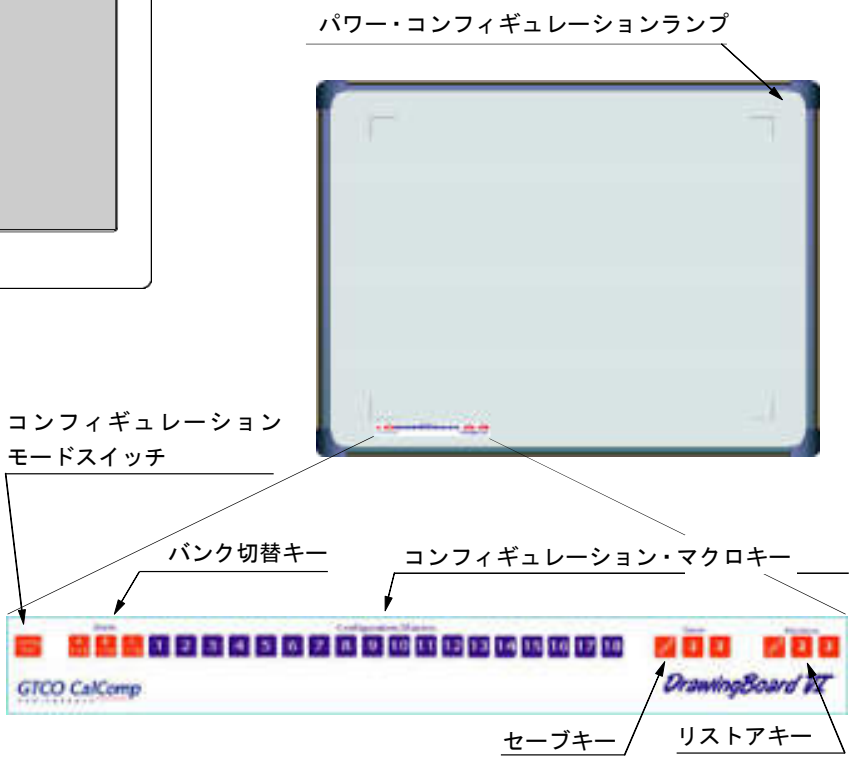
３）コンフィギュレーション・マクロメニューの機能

デジタイザをシリアルインターフェースを利用して使用する場合は、各アプリケーションの設定に従い、デジタイザの設定を変更します。 この設定は、デジタイザの盤面にあるコンフィギュレーション･マクロメニューを使用して行います。この章では、DrawingBoard-VIの盤面にあるコンフィギュレーション･マクロキーの各機能を説明いたします。

・DB6-1212/DB6-1218



・DB6-2024/DB6-2436/DB6-3648/DB6-4460

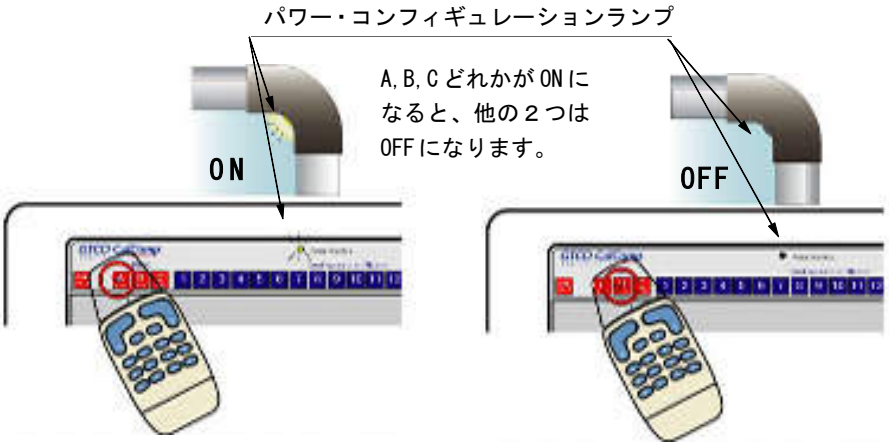


コンフィギュレーションモードスイッチ

コンフィギュレーション・マクロメニュー機能の有効、無効を切り替えます。ポインティングデバイスのいずれかのキーを押すたびに切り替わるトグルスイッチで、コンフィギュレーション・マクロメニューが有効になると各キーでデジタイザの設定が出来るようになります。ただし、コンフィギュレーションモードの間は、デジタイジイング作業は出来ません。

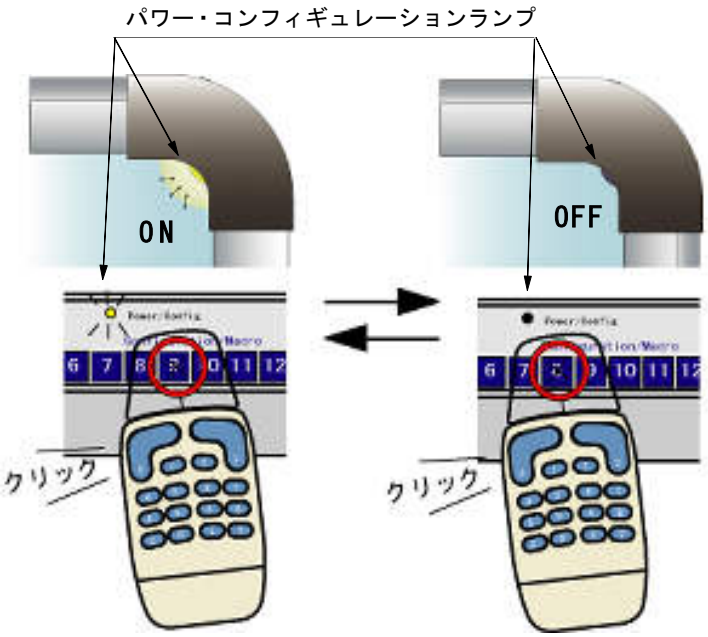
バンク切替キー

DrawingBoard VIは A～C迄それぞれ18個、総計54個のキー設定を持っています。このバンクキーを切り替えてそれぞれのバンクのキーにアクセスします。コンフィギュレーションモードに入った直後はAバンクが有効です。どれか一つのバンクを選択すると、それ以外のバンクスイッチは無効になります。設定状態はパワー・コンフィギュレーションランプで確認できます。



コンフィギュレーション・マクロキー

この設定のON/OFFでデジタイザを設定します。このキーはトグルになっていて、ポインティングデバイスのいずれかのキーを押すたびにONとOFFが切り替わります。設定状態はパワー・コンフィギュレーションランプで確認できます。



セーブキー

設定した値を保存する場合使用します。デジタイザ設定後保存したい番号の上でポインティングデバイスのいずれかのキーを押します。 デフォルトに保存するとデジタイザは電源投入時のデフォルト設定として起動します。 最大３つまで保存できます。

リストアキー

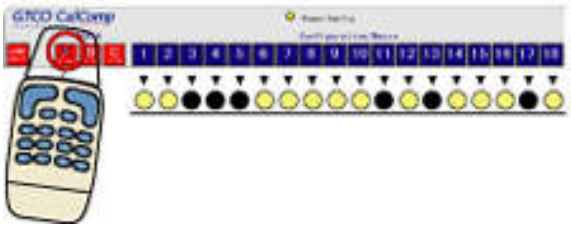
設定した値を呼び出す場合に使用します。 呼び出したいデジタイザ設定番号の上でポインティングデバイスのいずれかのキーを押します。

4）シリアル接続時のデジタイザ設定の流れ

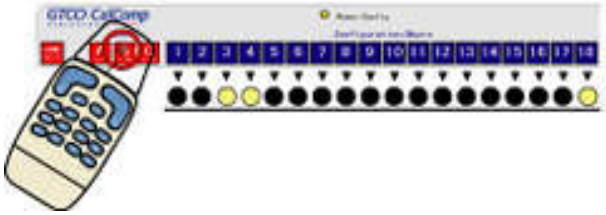
（デフォルトに設定する場合の１例）

・コンフィギュレーションモードに入ります。

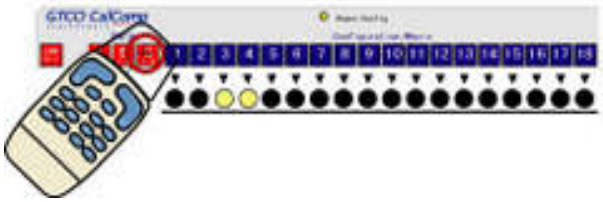
・Ａバンクの１～18を設定します。



・Ｂバンクの１～１８を設定します。



・Ｃバンクの１～18を設定します。



・設定を保存します。

・コンフィギュレーションモードを抜けます。

5）デジタイザセッテイング

Bank　Configuration/Macros

Config Exit　A 1-18　B 1-18　C 1-18　1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18

オペレーションモード設定

A 1-18　1 2

OFF	OFF	ラインモード
OFF	ON	ポイントモード
ON	OFF	トラックモード
ON	ON	ランモード ●

インクリメント値設定

A 1-18　3 4

OFF	OFF	なし ●
OFF	ON	1
ON	OFF	5
ON	ON	10

プロンプトモード設定

A 1-18　5

OFF	解除 ●
ON	設定

データレート設定

A 1-18　6 7 8

OFF	OFF	OFF	1 pps	100pps
OFF	OFF	ON	5 pps	50pps
OFF	ON	OFF	10 pps	20pps
OFF	ON	ON	20 pps	7pps
ON	OFF	OFF	40 pps	150pps
ON	OFF	ON	75 pps	5pps
ON	ON	OFF	100 pps	10pps
ON	ON	ON	125 pps	200pps ●

▲ MM フォーマット時

解像度設定

A 1-18　9 10 11

OFF	OFF	OFF	2540 lpi
OFF	OFF	ON	200 lpi
OFF	ON	OFF	254 lpi
OFF	ON	ON	400 lpi
ON	OFF	OFF	500 lpi
ON	OFF	ON	508 lpi
ON	ON	OFF	1000 lpi ●
ON	ON	ON	1250 lpi

● 工場出荷デフォルト

Bank　Configuration/Macros

Config Exit　A 1-18　B 1-18　C 1-18　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10　11　12　13　14　15　16　17　18

フォーマット設定

A 1-18

	12	13	14	15	16
No. 00 CalComp 2000 ASCII	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
No. 01 CalComp 2000 Wedge	OFF	OFF	OFF	OFF	ON
No. 02 Summa ID	OFF	OFF	OFF	ON	OFF
No. 03 Summa MM ASCII	OFF	OFF	OFF	ON	ON
No. 04 CalComp 9100 Format#1	OFF	OFF	ON	OFF	OFF
No. 05 CalComp 9100 Format#2	OFF	OFF	ON	OFF	ON
No. 06 CalComp 9100 Format#3	OFF	OFF	ON	ON	OFF
No. 07 CalComp 9100 Format#4	OFF	OFF	ON	ON	ON
No. 08 CalComp Bin With Every	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
No. 09 GTCO ASCII	OFF	ON	OFF	OFF	ON
No. 10 Kurta Series 1 #4 ASCII	OFF	ON	OFF	ON	OFF
No. 11 GTCO MD5 ASCII	OFF	ON	OFF	ON	ON
No. 12 Hitachi HDG 1111/1515 ASCII	OFF	ON	ON	OFF	OFF
No. 13 Hipad ASCII	OFF	ON	ON	OFF	ON
No. 14 Hitachi ASCII	OFF	ON	ON	ON	OFF
No. 15 WACOM ASCII	OFF	ON	ON	ON	ON
No. 16 WACOM ASCII	ON	OFF	OFF	OFF	OFF
No. 17 WACOM ASCII	ON	OFF	OFF	OFF	ON
No, 18 予備	ON	OFF	OFF	ON	OFF
No. 19 Mac Serial	ON	OFF	OFF	ON	ON
No. 20 CalComp AFT	ON	OFF	ON	OFF	OFF
No. 21 WACOM Binary	ON	OFF	ON	OFF	ON
No. 22 GTCO DP5 Binary	ON	OFF	ON	ON	OFF
● No. 23 CalComp Binary（デフォルト）	ON	OFF	ON	ON	ON
No. 24 GTCO Binary	ON	ON	OFF	OFF	OFF
No. 25 GTCO Lo-Reso Binary	ON	ON	OFF	OFF	ON
No. 26 Kuruta #3 Binary	ON	ON	OFF	ON	OFF
No. 27 Hitachi Hi-Reso Binary	ON	ON	OFF	ON	ON
No. 28 CalComp 2000 Binary	ON	ON	ON	OFF	OFF
No. 29 Summa MM Binary Delta	ON	ON	ON	OFF	ON
No. 30 Summa MM Binary 5byte	ON	ON	ON	ON	OFF
No. 31 Summa MM Binary 8byte	ON	ON	ON	ON	ON

ラインフィード設定

A 1-18

	17
● 付加しない	OFF
付加する	ON

データビット設定

A 1-18

	18
７ｂｉｔ	OFF
● ８ｂｉｔ	ON

● 工場出荷デフォルト

Bank: Config Exit / A 1-18 / B 1-18 / C 1-18

Configuration/Macros: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18

通信速度設定

B 1-18 — 1 2 3

OFF	OFF	OFF	19200 bps	
OFF	OFF	ON	9600 bps	●
OFF	ON	OFF	4800 bps	
OFF	ON	ON	2400 bps	
ON	OFF	OFF	1200 bps	
ON	OFF	ON	115200 bps	
ON	ON	OFF	57600 bps	
ON	ON	ON	38400 bps	

パリティ設定

B 1-18 — 4 5 6

OFF	OFF	OFF	奇数パリティ(odd)	
OFF	OFF	ON	偶数パリティ(EVEN)	
OFF	ON	OFF	−	
OFF	ON	ON	−	
ON	ON/OFF	ON/OFF	ノンパリティ(NONE)	●

ON/OFF どちらでもかまいません。

動作周波数設定

B 1-18 — 7

OFF	低(57KHz)	●
ON	高(61.4KHz)	

1byteコマンド認識設定

B 1-18 — 8

OFF	有効	●
ON	無効	

ESC コード設定

B 1-18 — 9

OFF	許可	●
ON	必須	

PROX OUT 出力

B 1-18 — 10

OFF	停止	●
ON	出力	

筆圧データ出力

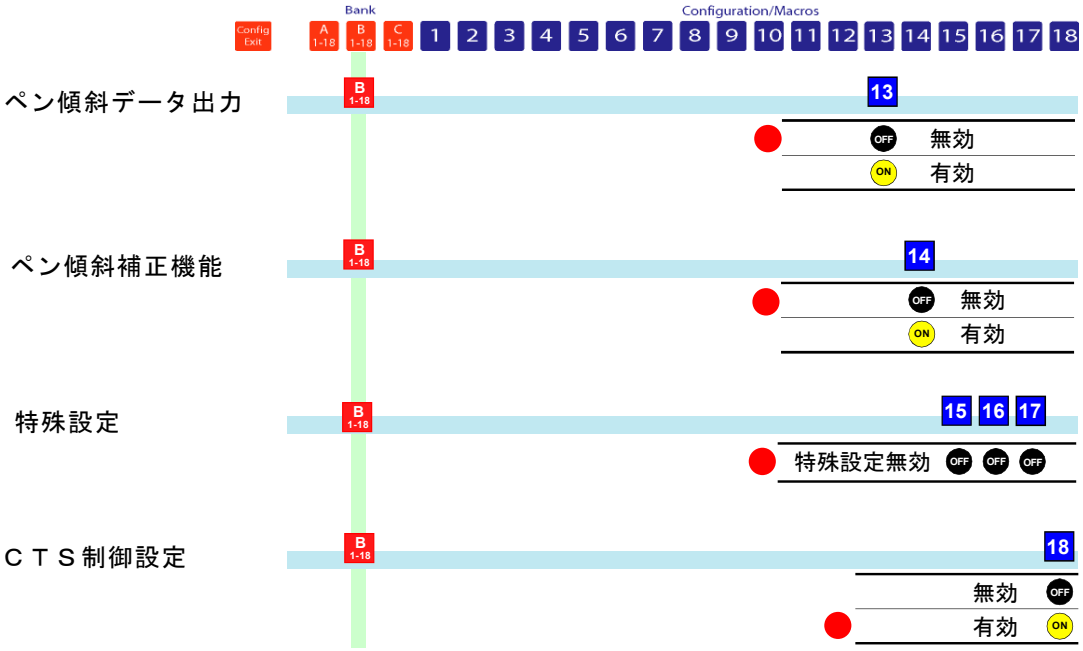
B 1-18 — 11

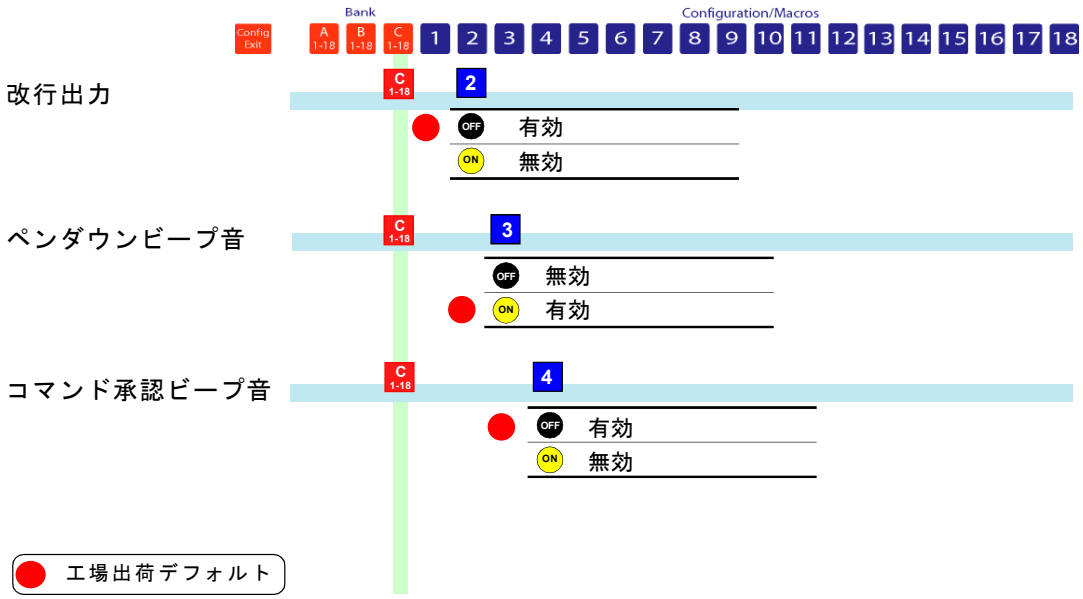
OFF	無効	●
ON	有効	

高さデータ出力

B 1-18 — 12

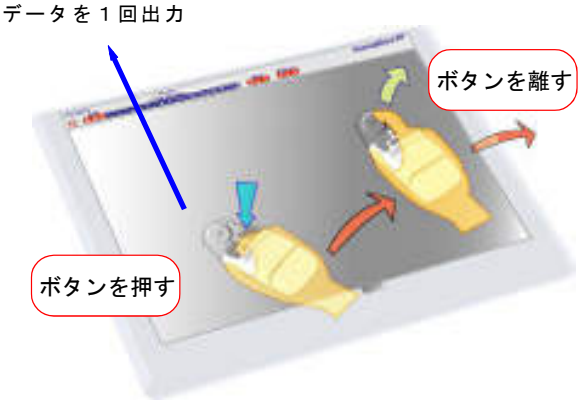
OFF	無効	●
ON	有効	


Bank
Configuration/Macros
Config Exit
A 1-18
B 1-18
C 1-18
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18
ペン傾斜データ出力
13
OFF 無効
ON 有効
ペン傾斜補正機能
14
OFF 無効
ON 有効
特殊設定
15 16 17
特殊設定無効 OFF OFF OFF
ＣＴＳ制御設定
18
無効 OFF
有効 ON

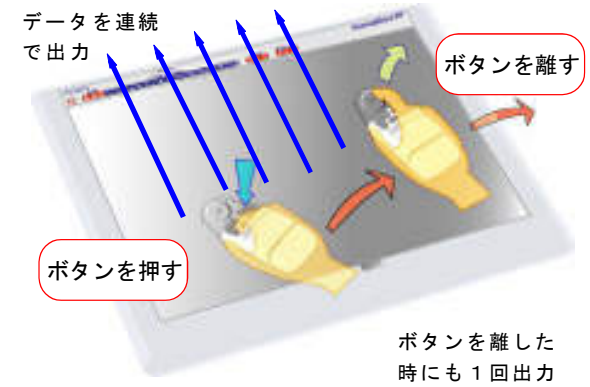

Bank
Configuration/Macros
Config Exit
A 1-18
B 1-18
C 1-18
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18
改行出力
2
OFF 有効
ON 無効
ペンダウンビープ音
3
OFF 無効
ON 有効
コマンド承認ビープ音
4
OFF 有効
ON 無効
工場出荷デフォルト

デジタイザ設定の用語解説

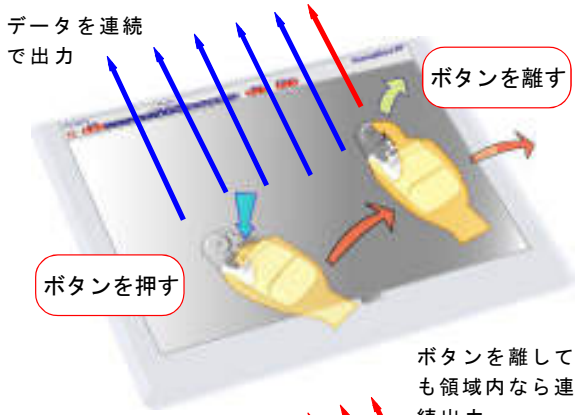
1） ポイントモード：
　ポインティングデバイスのボタンを押した時に１回だけデータを出力するオペレーションモード。ボタンを離し再度押すまでは次のデータは出力されません。



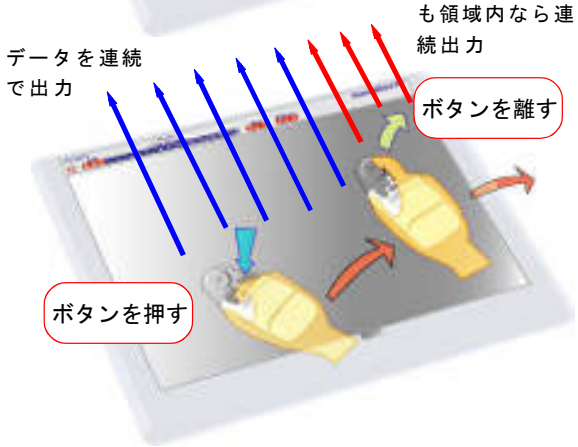
2） トラックモード：
　ポインティングデバイスのボタンを押している間は、データレートで指定した間隔でデータを出力し続けるオペレーションモード。スイッチストリームモードと呼ばれる事もあります。



3） ラインモード：
　トラックモードと同じく、ポインティングデバイスのボタンを押している間は、データレートで指定した間隔でデータを出力し続けるが、ボタンを離した際、離したボタン情報も出力するオペレーションモード。



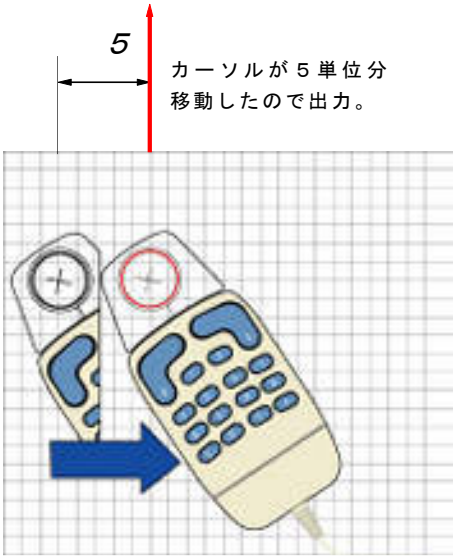
4） ランモード
　ポインティングデバイスがデジタイザの検知域内にいる間は、ボタンを押す押さないにかかわらず、データレートで指定した間隔でデータを出力し続けるオペレーションモード。ストリームモードと呼ばれる事もあります。



・インクリメントモード

このモードはオペレーションモードと組み合わせて使用されます。このモードでは、Ｘ軸またはＹ軸方向で指定した増加距離をポインティングデバイスが移動し、オペレーションモードの条件を満たした場合のみデータを出力します。

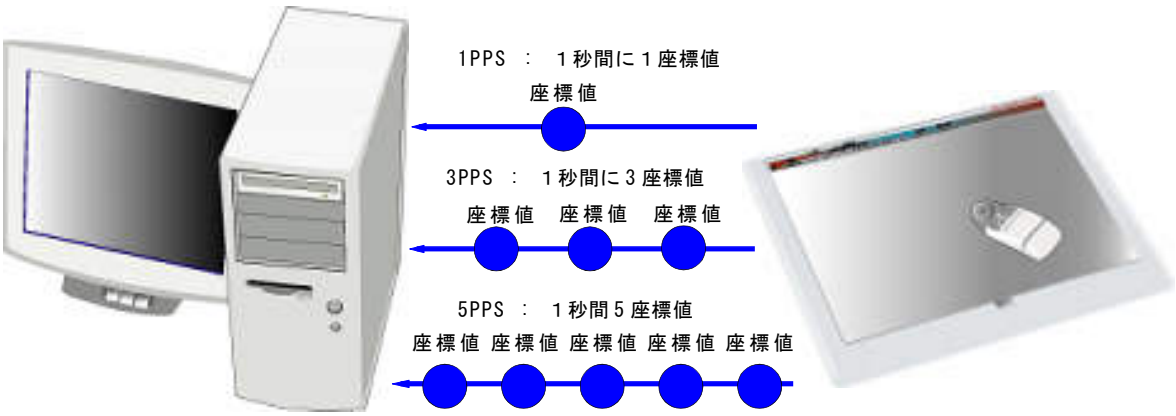
例えば分解能　0.1mm で、インクリメント５に設定してある場合、カーソルが５単位分、この解像度の場合は、0.1mm x ５単位 = 0.5mm 移動しないとデータは出力されません。
尚、データも0.5mm（５単位）ごと出力される事になります。



・プロンプトモード
このモードはオペレーションモードと組み合わせて使用されます。このモードでは、ホスト側からプロンプトキャラクタ（デフォルトで'?'）が来るとデジタイザはデータを１座標値出力します。リモートーモードと呼ばれる事もあります。

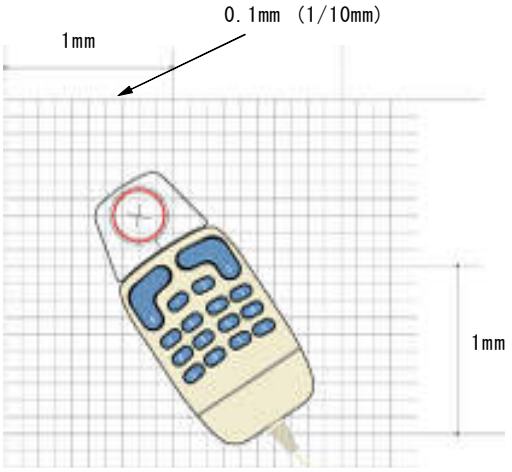
・データレート

１秒間に出力する座標値のデータ数を設定します。単位はＰＰＳ(Point　Per　Second)です。ただし通信条件とフォーマット形式により必ずしも設定した出力数を出力できない事もあります。



・解像度

デジタイザの出力できる最小の間隔。インチあたりのライン本数 LPI(Line Per Inch)、またはミリメートル当たりのライン本数 LPMM (Line Per Millimeter)で表します。印刷用語のLPI(スクリーン線数)とは異なります。例えば10lpmmは、254lpi と同じで、1mm を10 等分つまり0.1mm(1/10mm)が最小の値となります。
出力するデータは実際の値に解像度をかけた整数値が出力されますので、受け取り側は解像度分で割る必要があります。
例えば 10lpmm で設定していた場合、50.2mm の位置をクリックすると、50.2mm x 10lpmm = 502 という整数値に変換されて出力されますので、受け取り側は再度1/10 を掛けて元の値に戻す必要があります。



・フォーマット

デジタイザの座標値を出力するデータ形式を指定します。DrawingBoard-VI ではアスキー及びバイナリ、総計３２種のフォーマットをサポートしています。アプリケーション側のマニュアルに従って設定して下さい。
詳しくは付録A.DrawaingBoard シリーズのフォーマットをご参照下さい。

・ラインフィード

アスキー形式の出力データの末尾に付加するオプションキャラクタで、行の先頭まで戻ります。１６進コードで0x0a となります。バイナリフォーマットでは無視されます。

・データビット

出力データのビット長を７ビットまたは８ビットに指定します。アスキーフォーマットの場合は７，８ビットどちらも使えますが、バイナリフォーマットでは１部を除き８ビットを指定して下さい。

・1byte コマンド

DrawingBoard VI は、CalComp 9x00 コマンド(全フォーマット)、CalComp 2000ASCII コマンド(フォーマット#3,#30 を除く)、SummagraphicsMM コマンド(フォーマット#3,#30 のみ)の３種類をサポートしています。このうちCalComp 2000ASCII コマンドと Summagraphics MM コマンドは1 バイトで構成されるコマンド郡ですが、ノイズと混同される場合があり環境によっては誤動作の原因となります。もしお使いのアプリケーションがこれらのコマンドを使用していない場合は、この設定をオンにして下さい。

・通信速度（ボーレート）

デジタイザとホストコンピュータ間のデータ転送効率の単位で、１秒間にホストコンピュータとデジタイザの間を転送したビットの個数を表します。単位はBPS(Bit Per Second)です。

・パリティ

デジタイザから出力されるデータのエラー検出用ビットの有効・無効、付加方法を指定します。

・動作周波数設定

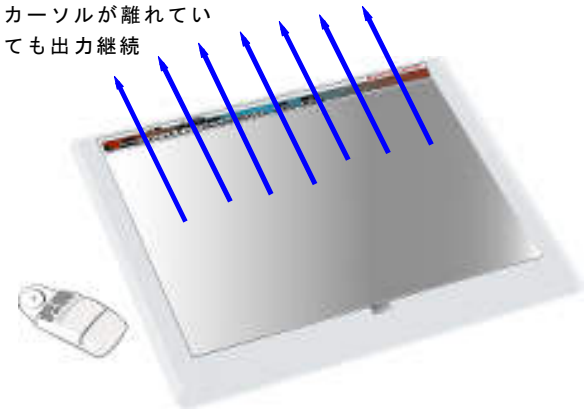
デジタイザのポインティングデバイスの周波数を57.6KHz または61KHz に切り替えます。電磁波の周波数干渉によりディスプレィ上のポインタがブレる場合にお試し下さい。ただしポインティングデバイスがワイヤレスタイプの時は、ポインティングデバイスの周波数も必ず切り替えて下さい。
操作方法は第 4 章をご参照下さい。

・ESC コード設定

DrawingBoard VI の持つ、CalComp 9x00 コマンドは、ESC% ～ CR(0x1b,0x25, ～ , 0x0d)の４文字以上で構成されるコマンドですが、最初のＥＳＣ コードが無くても９１００ コマンドとして認識できます。もし厳格に CalComp9x00 コマンドの受渡しが必要な場合はこの設定をＯＮにして下さい。
詳細はDrawingBoard VI のコマンドをご参照下さい。

・PROX OUT 設定

検出エリア外でもオペレーションモードとデータレートに従いデータを出力します。ただし検出エリア外のデータは無効値となります。



・筆圧データ

主にＣＧソフトに使われ、紙に筆で書くようにペン圧の強弱で線の太さが変化します。ただし、筆圧ペンで筆圧に対応したアプリケーションを使わないと、この効果は発揮できません。

・高さデータ

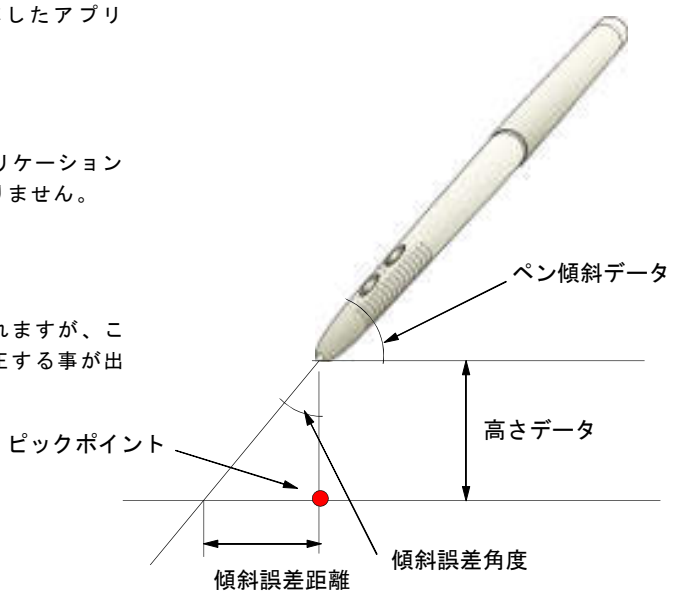
デジタイザからのポインティングデバイスまでの高さ情報を出力します。現在この機能に対応したアプリケーションはありません。

・ペン傾斜データ

ペンの傾き情報を出力しますがＣＡＤ アプリケーションでこの機能を使用しているものは現在ありません。

・ペン傾斜補正機能

ペンを傾けるとポイントが多少斜めにずれますが、ここをオンにする事で、位置ずれの分を補正する事が出来ます。

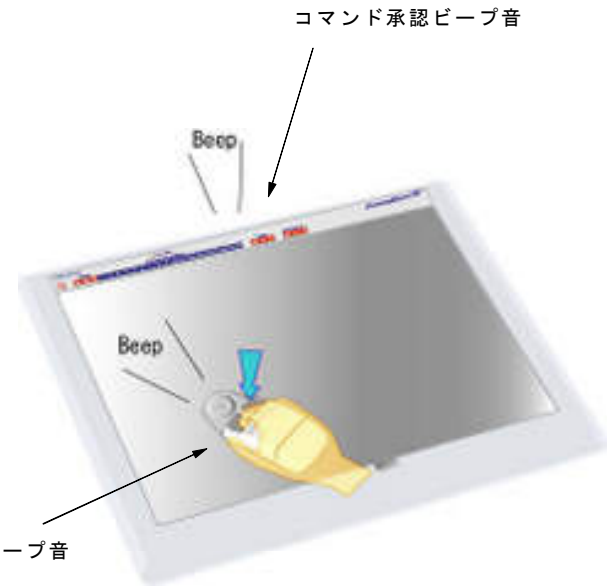


・CTS 制御
バッファオーバーフローの防止など、RS-232C 通信回線のハードウエアフロー制御を行います。

・改行出力
アスキー形式の出力データの末尾に付加するオプションキャラクタで、１行改行します。１６進コードで0x0d となります。バイナリフォーマットでは無視されます。

・ペンダウンビープ音
この設定をＯＮにすると、ポインティングデバイスのボタンを押す毎にビープ音が出力されます。

・コマンド承認ビープ音
ホストコンピュータから正しくコマンドを受け取った場合、デジタイザはビープ音をならします。この設定を切ると鳴らなくなります。



付録.B　FAQ 及 問題発生時の処理

この章では デジタイザに関する疑問や何らかの問題が発生した場合の対処方法や疑問などについて解説致します。故障かなまたは何故かなと思ったときにご確認下さい。

・デジタイザＦＡＱ

Ｑ１：デジタイザとタブレットはどう違うのですか？

Ａ１：昔、タブレットというと小型で低精度尚かつ低価格のメニュー選択用入力装置で、デジタイザは大型で高精度尚かつ高価格で図面や地図のデジタイズを行う入力装置でしたが、現在ではＩＣの集積化とフィルムグリッドの採用により精度と筐体の大きさと価格以外の性能差は殆どありません。この為、当社ではＡ2サイズまでをタブレットと呼び　A1 サイズ以上をデジタイザと呼んでいましたが、現在では全サイズともデジタイザと呼んでいます。

Ｑ２:デジタイザにはどんな大きさがありますか？またはどんなタイプがありどんな用途に使われますか？

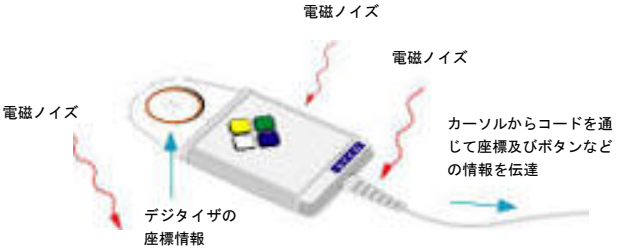
Ａ２：当社には、板状のデジタイザのDrawingBoard VI シリーズと、巻取り式の Roll-Up III シリーズがあります。DrawingBoard VI シリーズには更に高精度版もあります。卓上用の小型タイプまたは高精度のデジタイズがご必要な場合は、DrawingBoard VI シリーズを、精度より収納性や可搬性、必要なときだけ広げて使用できる利便性をお求めの場合は Roll-Up III シリーズをご選択下さい。標準版の DrawingBoard VI シリーズにはA4, A3, A2, A1, A0, B0の6種類のサイズを用意しており、CAD関連の業務に使用されます。高精度版の DrawingBoard VI シリーズはA2, A1, A0, B0の4種類を用意してあり、地図関連業務によく使用されます。Roll-Up III シリーズはA2, A1, A0, の3種類のサイズがあり、服飾関係の業務によく使用されてます。

Ｑ３：どんなペンやカーソルがありますか？

Ａ３：デジタイザから入力する機器をポインティングデバイス又はトランスデューサと呼びます。DrawingBoard VI のポインティングデバイスにはコード付きとコードレスがあります。Roll-Up III はコード付きのみです。コード付きポインティングデバイスは、環境耐性が強く、工場等の電磁気の強いところでも高い精度で入力できます。種類は、クリックペン、4 ボタンカーソル、16 ボタンカーソルの3 種類があります。尚、高精度版デジタイザでは、専用の16 ボタンカーソルのみとなります。ワイヤレスポインティングデバイスはコードに煩わされることなく使う事が出来ます。種類は、クリックペン、筆圧ペン、4 ボタンカーソル、16 ボタンカーソルの4 種類があります。筆圧ペンはペン先にストロークがあり、筆で書いたような強弱を画面上に出力できますが、TabletWorks を使い、Wintab1.0 仕様の筆圧対応アプリケーションを使った場合にのみ有効です。

Ｑ４:コードレスとコード付がありますがどちらを選択したらよいのですか？

Ａ４：ご使用の環境によって異なります。どうしても周囲の電磁波発生源と干渉する、または電池切れが心配な場合は、コード付きポインティングデバイスをご選択下さい。
　ワイヤレスカーソルの場合、カーソルが読み取った座標やカーソルのボタンの情報は直接デジタイザ盤面に送信されますが、電磁ノイズが強いと、デジタイザはこれがカーソルからの送信された情報か、周囲の電磁ノイズによるものか誤認識する場合があります。これがワイヤレスカーソルの方が周囲からの干渉を受けやすい理由です。しかしコード付きカーソルの場合は、カーソルが読み取った座標及びボタンの情報はカーソルのケーブルを通じてデジタイザに送信されますので、電磁ノイズがあっても、デジタイザはコード経由できたものがカーソルの情報として認識できる為、周囲の電磁ノイズからの影響を受けにくくなっています。



Ｑ５:デジタイザのポインティングデバイスにはたくさんボタンがあるものもありますが､どう使うのですか？
Ａ５：TabletWorks マネージャの機能を使うと、ポインティングデバイスの各ボタンにマウスの左右中央ボタンのクリック・ダブルクリック機能を付けたり、キーボードマクロ機能やモード切替、マネージャ呼び出し機能を付ける事が出来ます。アプリケーション側に各ボタンへの設定機能があれば、その機能をデジタイザのカーソルに割付ることも可能です。たとえばアプリケーション機能としてコピーや削除などを割り付ける機能があれば、それをポインティングデバイスの各ボタンに割り付ける事も出来ます。ただし、TabletWorks の割り付けた機能と干渉する場合がありますので、アプリケーションの機能を有効にしたい場合は、TabletWorks で各ボタンへの割付設定をしない方が良いでしょう。

Ｑ６:古いカルコンプのデジタイザのポインティングデバイスはDrawingBoard VIで使用できますか？
Ａ６：DrawingBoard VI では、DrawingBoard III/IV/V のワイヤレスポインティングデバイスは使用出来ますが、コード付きポインティングデバイスはコネクタ形状が違う為ご使用にはなれません。

Ｑ７：別メーカーのデジタイザを使っていましたが、古くなったのでGTCO CalCompのデジタイザに変更したいと思いますが、可能ですか？
Ａ７：Wintab1.0 仕様のアプリケーションでデジタイザをお使いであれば、ドライバごと交換すればご使用になれます。また当社のデジタイザは実質 20 種以上のデジタイザフォーマットに対応していますので、デジタイザ制御用のコマンドを使用していなければ、変更が可能です。特に各ユーザー様ごとにカスタマイズされたデジタイザを使用する専用アプリケーションの場合は、特殊なデジタイザ専用コマンドを使用している事は少ないので、変更できる可能性は大きいです。ご確認をご希望の場合は当社営業までお問い合わせ下さい。

Ｑ８：デジタイザは Windows Vistaや Windows 7 に対応していますか？
Ａ８：TabletWorks 10.04より Windows Vistaに、TabletWorks 10.09より Windows7に対応しています。

Ｑ９：デジタイザは Windows 8に対応していますか？
Ａ９：TabletWorks 10.10より Windows8に対応しています。

Ｑ１０：64 bit Windowsに対応していますか？
Ａ１０：TabletWorks 10.07より 64bit版 Windows Vista/ Windows XPに,TabletWorks 10.09より64bit版 Windows 7に,TabletWorks 10.10より64bit版Windows 8に正式対応しています。

Ｑ１１：デジタイザは USBをサポートしていますか？
Ａ１１：DraweingBoard V及び DrawingBoard VI、Roll-Up IIIより対応しています。ただしUSBを使用する場合は、TabletWorksドライバをインストールして下さい。また、Wintab 1.0対応でないアプリケーションではWintab の機能をご利用になれません。

Ｑ１２：シリアルポートをサポートしていますか？
Ａ１２：サポートしています。別売のシリアルポート接続キットをお買い求め下さい。

Ｑ１３：WindowsPC以外に対応していますか？
Ａ１３：別売のシリアルポート接続キットをご購入いただければ、ＥＷＳ等にもご使用になれます。ただし当社デジタイザをサポートしているアプリケーションまたはドライバが必要です。またシリアルケーブルに特殊な配線が必要な場合もあります。

Ｑ１４：デジタイザ盤面に測定用の用紙を止める場合、マグネットを使用できますか？
Ａ１４：出来ません。測定精度が落ちてしまいます。また静電吸着型もございませんので、デジタイザに図面を貼り付ける場合は、ドラフティングテープ等をご使用下さい。

Ｑ１５：デジタイザは AppleのMachintoshシリーズに対応していますか？
Ａ１５：現行の Machintosh シリーズには対応しておりません。

Ｑ１６：TabletWorksとWintabはどう違うのですか？
Ａ１６：TabletWorks はGTCO CalComp 社がデジタイザ製品に添付しているドライバの総称です。以前は Macintosh 版もありましたが、現在は Windows 版のみです。TabletWorks ドライバは、Windows 用の Wintab 及び Tabcon のファンクションに対応したドライバで、アプリケーションがWintab または Tabcon のファンクションに対応していれば、マウス以外にデジタイザの機能を使用できます。対応していないアプリケーションではマウスとしてのみ動作します。"TabletWorks10.x 以降は、パテントの関係で Wintab1.0 のみのサポートとなります。Wintab1.1 以降の機能を使う場合は、Vertual Tablet Inc の vTablet ドライバ(有償)をお使い下さい。TabCon はGTCO CalComp 社が提唱している ActiveX を利用したドライバですが、現状日本国内でサポートしているアプリケーションはありません。

Ｑ１７：TabletWorksドライバをインストールするときに警告メッセージが出ます。
Ａ１７：警告は無視してかまいません。もしインストールできない場合は、システムプロパティより、ドライバ署名オプションを開き、警告にチェックを入れてから、再度インストールして下さい。警告ダイアログが出ますが、無視してインストールを続行して下さい。

問題が発生した場合

弊社では、DrawingBoard VIのご使用についてご満足いただけるものと確信しておりますが、万が一何らかの問題が発生した場合は、下記の手順に従って処理を行ってください。

1．もう一度マニュアルを読んで、操作手順が誤っていないかどうかを確認してください。

2．この付録を参照して、問題の解決方法が記載されていないかどうかを確認してください。チェックリストとトラブルシューティングリストを確認してください。デジタイザ以外にも、ご使用のコンピュータ、ディスプレィやソフトウェアに問題が発生した可能性があることも考慮して下さい。

3．それでも尚問題が解決しない場合は、下記窓口までご連絡下さい。

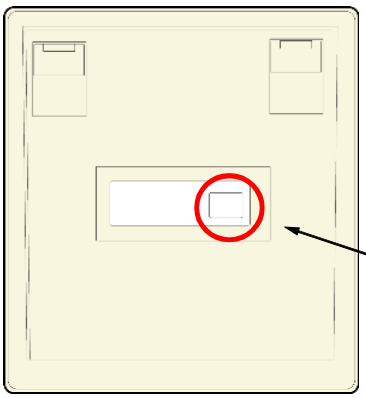
問い合わせ窓口
1）電話/FAX：日本オセ株式会社　サービス・サポート本部
コールセンター
TEL 03-6719-9621　FAX 03-6719-8414
2）日本オセ：テクニカルサポート：
https://www.ocejapan.jp/contact/inform_support.html
3）E-Mail：　OJP-intake@oce.com

尚、質問の際は下記情報をご連絡頂けますようご協力をお願いいたします。

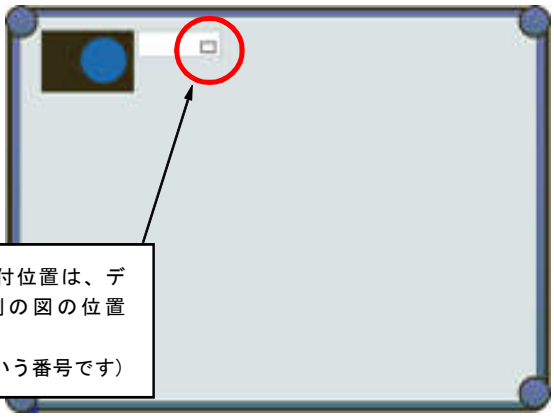
・問題の状況
- ご使用中のソフトウェアパッケージの名称及びバージョン番号
- ご使用中のコンピュータの機種、OS、バージョンNo.
- DrawingBoard VIのシリアル番号と部品番号、製造日付。（シリアル番号、部品番号及び製造日付はデジタイザの裏のラベルに記載されています。位置は下図を参照願います）
- ポインティングデバイスのタイプ
- 電話でのお問い合わせの場合は、デジタイザの近くよりご連絡をお願いいたします。

（注）デジタイザのシリアルナンバーの位置

DB6-1212, DB6-1218



DB6-2024, DB6-2436, DB6-3648, DB6-4460



シリアル番号貼付位置は、デジタイザの裏側の図の位置にあります。
（S/N: DB6～という番号です）

・ デジタイザのチェックリスト

USB 接続の場合

□ USB使用時 USBケーブルはデジタイザ本体、及びコンピュータのUSBポートに下記の形状のコネクタが接続されていますか？　もし途中にUSBハブが入っている場合は、直接コンピュータに取り付けてみてください。

PCには平べったい方のコネクタを接続します。

デジタイザには正方形に近いコネクタを繋げます。

□ デジタイザの電源スイッチは入っていますか。

□ コネクタケーブルやソケットは損傷していませんか。ピンの折れ、絶縁体の切断、配線の緩みなどをチェックしてみてください。

□ 全てのケーブルがしっかりと接続されていますか。

□ コード付きポインティングデバイスのケーブルはデジタイザに接続されていますか？

□ コードレスポインティングデバイスを使用している場合、スリープモードに入っているとモニタランプが点滅します。そのときポインティングデバイスのボタンをどれか押すと、スリープモードが終了してポインティングデバイスは有効になります。ポインティングデバイスを有効エリア内に置いてもモニタランプが点滅する場合は、コードレスポインティングデバイスの電池を交換してください。

□ ご使用のPC及びOSはUSBをサポートしていますか？

□ TabletWorks ドライバはインストールされましたか？USB接続の場合は、TabletWorksドライバの持つ Wintab機能及びTabCon機能しかご使用になれません。

□ TabletWorks コントロールパネル上で、WintabまたはTabConの機能にチェックが入っていますか？

□ お使いのアプリケーションは、Wintab 1.0に対応したアプリケーションですか？尚、TabletWorksのWintabはパテントの制限でWintab1.0に準拠となってますので、Wintab1.1対応のアプリケーションは正常に動作しない場合があります。

□ USBを一度抜き差ししてみて下さい。

□ デジタイザの電源を一度切って再度投入してみてください。

□ コンピュータを再起動してみてください。

シリアル接続の場合

□ デジタイザの電源ケーブルは本体に接続されていますか？

□ デジタイザの電源スイッチは入っていますか。

□ RS232Cケーブルはデジタイザ本体、及びコンピュータのシリアルポートに接続されていますか？　もし途中に切り替え器などが入っている場合は、外して直接コンピュータに取り付けてください。　また機種により接続ポートの形状が異なりますので、接続ポートを間違わないようにして下さい。（下図の左よりPC/AT互換機【Windows機】のシリアルコネクタ、アナログＲＧＢコネクタ、プリンタコネクタです。）

▲
Windows機は、この形状の
コネクタに接続します。

□ コネクタケーブルやソケットは損傷していませんか。ピンの折れ、絶縁体の切断、配線の緩みなどをチェックしてみてください。

□ 全てのケーブルがしっかりと接続されていますか。

□ ご使用のソフトウェアパッケージで指定されたシリアルポートにケーブルが正しく接続されていますか。

□ RS-232Cでは、コンピュータによっては電源投入時にシリアルポートにノイズが発生する場合があります。デジタイザはこれを 1 byteコマンドと誤認識する場合もあります。　コンピュータの電源投入後、デジタイザの電源スイッチを入れてください。

□ RS-232Cをご使用の場合、システム起動時にポインティングデバイスがデジタイザの上に載っていると常に座標値が出力される場合もあり、ドライバ側がうまくデジタイザを認識出来ない場合もあります。　デジタイザが正しく動作しないときはポインティングデバイスを有効エリア外に置いた状態でシステムを起動してください。

起動時にカーソルを離します。

□ コード付きポインティングデバイスのケーブルはデジタイザに接続されていますか？

□ コードレスポインティングデバイスを使用している場合、スリープモードに入っているとモニタランプが点滅します。そのときポインティングデバイスのボタンをどれか押すと、スリープモードが終了してポインティングデバイスは有効になります。ポインティングデバイスを有効エリア内に置いてもモニタランプが点滅する場合は、コードレスポインティングデバイスの電池を交換してください。

□ デジタイザのコンフィギュレーションは、ソフトウェアで指定された設定になっていますか？　特にTabletWorksをご使用の場合は、工場出荷デフォルト設定をデフォルトにセーブしていないと起動できない場合もありますので注意が必要です。

□ お使いのアプリケーションは、Wintab 1.0に対応したアプリケーションですか？　その場合、TabletWorks ドライバのインストールが必要です。　尚、TabletWorksのWintabはパテントの制限でWintab1.0に準拠となってますので、Wintab1.1対応のアプリケーションは正常に動作しない場合があります。

□ TabletWorks コントロールパネル上で、WintabまたはTabConの機能にチェックが入っていますか？

□ アプリケーションのデジタイザの設定を行いましたか？アプリケーションでデジタイザの初期設定をきちんとしないと、正確な入力が出来ません。

□ お使いのアプリケーションは、Wintab 1.0に対応してないアプリケーションですか？　その場合は TabletWorks Control Panel上で、デジタイザを無効にするか、TabletWorksをアンインストールして下さい。

□ デジタイザの電源を一度切って再度投入してみてください。

□ コンピュータを再起動してみてください。

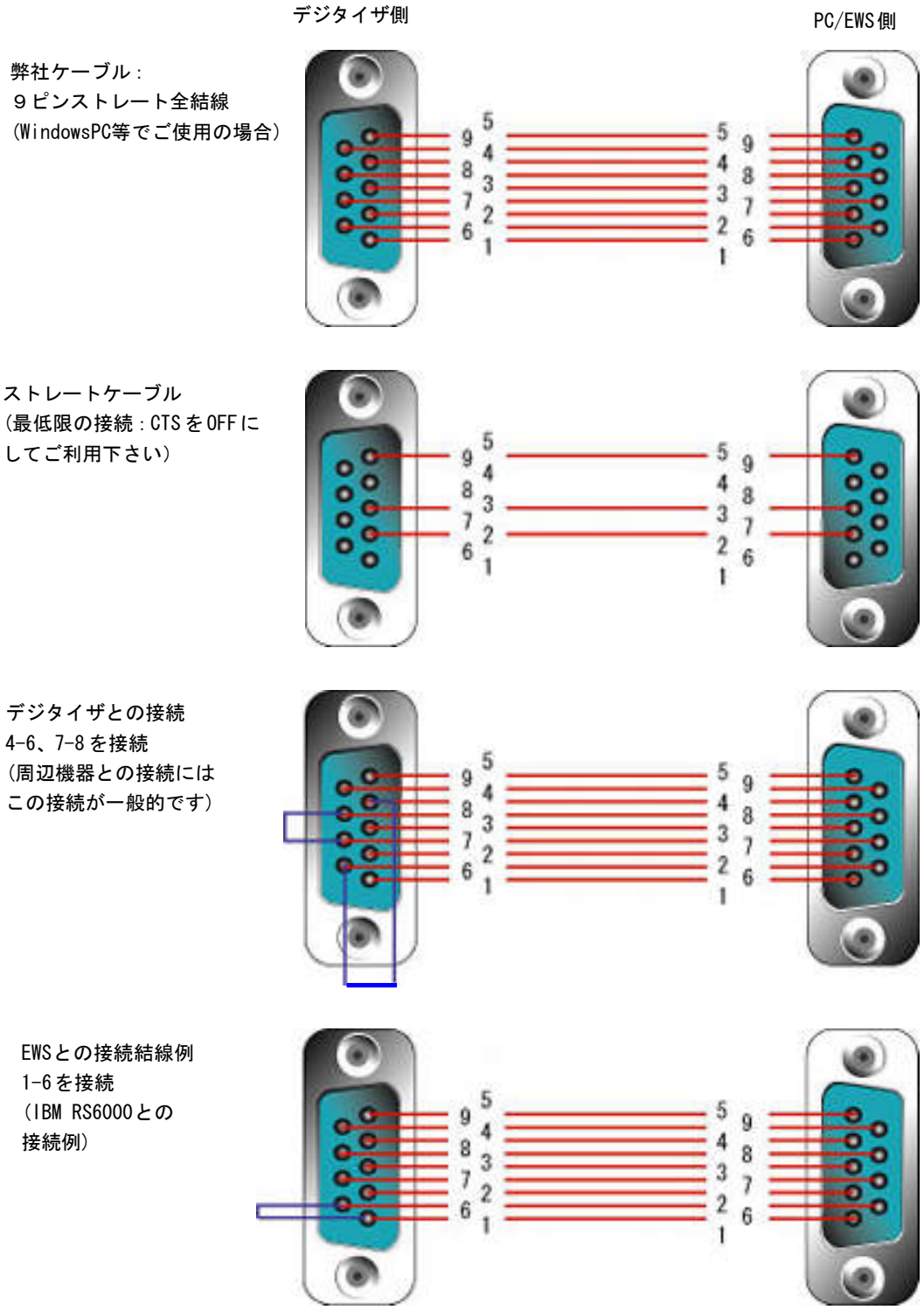
□ ソフトウエアをアップデート後動作しなくなった場合は、デジタイザのサポート機種、接続ポート、デジタイザのコンフィギュレーション設定を確認して下さい。

問　　題	原　　因	解　決　方　法
デジタイザ電源投入時のビープ音がならない。 パワー・コンフィギュレーションランプが点灯または点滅しない。	USB ケーブルがPC またはデジタイザに接続されていない。	USB を接続を確認し差込直す。
	電源がコンセントに入っていない。 AC アダプタが接続されていない。 電源ケーブルがRS コネクタから外れている。　またはしっかり接続されていない。	電源ケーブルをRS コネクタにしっかりと接続する。
	機付きのAC アダプタを使用していない。	機付きのAC アダプタに変更する。
	デジタイザ本体の不調または故障。	弊社修理となります。
デジタイザ電源投入時のビープ音が低い。	デジタイザ本体の不調または故障。	弊社修理となります。
パワー・コンフィギュレーションランプが点灯状態のまま。	ポインティングデバイスが盤面上に乗っている。	ポインティングデバイスを盤面上から離す。
	周囲の機器の電磁波の影響。	周囲の機器からデジタイザ本体を離す。
	アースがきちんと取られていない。	アースを取り付ける。
	デジタイザ本体の不調または故障。	弊社修理となります。
デジタイザドライバがインストール出来ない。	ダウンロードしたファイルの不良。	再度ダウンロードする。
	ハードディスクの容量が足らない。	ＨＤＤを増設、あるいはツールなどを使ってＨＤＤの容量を増やす。
	ウィルス対策ソフトなどの常駐ソフトが常駐している。	常駐ソフトの常駐を一旦解除する。
	レジストリ書き込みユーティリティ等がドライバのインストーラを監視している。	レジストリ書き込みユーティリティをインストール時のみ起動を中止する。
インストール時にエラーメッセージが出る。	デジタルロゴ認証をしていない為。	デジタル認証バージョンを使用する。または、そのままインストールを続ける。
	ファイルパスがリセットされた。	参照よりそのファイルのあるフォルダを指定する。
	非対応のドライバをインストールした。	非対応のドライバをアンインストールし、対応ドライバをインストールする。
ドライバインストール後Windows が起動しない。	マウスを含め、他社のWintab ドライバがインストールされている。	他社のWintab ドライバをアンインストールする。
	モデムなど他のドライバとぶつかっている。	モデムなどのドライバを最新版にアップデートするか、もしくはアンインストールする。
Windows 起動時にエラーメッセージが出る。	デジタイザが接続されていない、または電源が入っていない。 一部のファイルがインストールされていない。	デジタイザをしっかり接続する、または電源を入れる。 一端リムーブし、再度インストールを行う。
Windows 起動後、マウスカーソルが出てこない。	デジタイザが接続されていない、または電源が入っていない。	デジタイザのUSB またはRS-232C ケーブルをPC にしっかり接続し、RS-232C 接続の場合は、電源を確認する。

問　　題	原　　因	解　決　方　法
Windows 上でデジタイザを認識できない。(タスクトレイの TabletWorks アイコンにXが付く。)	USB の認識失敗。	デジタイザの電源を一旦リセット後、USB コネクタを再度接続する。
	多くのUSB 機器がハブを介して接続されている。	PC のUSB ポートへダイレクトに接続する。
	シリアル起動時の認識失敗。	デジタイザの電源を一旦リセットし、再度RS-232C コネクタに接続する。
	RS-232C ケーブルの間に自動切替機または全品接続でないRS-232C の手動切替機を使用している。	RS-232C ケーブルの切替機を外して直接接続する。
画面上のポインタが動かず、パワー・コンフィギュレーションランプが点滅している。	ワイヤレスポインティングデバイスがスリープモードになっている。	ワイヤレスポインティングデバイスのボタンを押しスリープモードから復帰させる。
	ポインティングデバイスが作図エリアに入っていない。	ポインティングデバイスを作図エリアに入れる。
	ワイヤレスポインティングデバイスの電池が切れている。	ワイヤレスポインティングデバイスの電池を取り替える。
デジタイザはポインティングデバイスは認識しているが、Windows 上で使用出来ない。	デジタイザがコンフィグレーションモードになっている。	デジタイザのコンフィグレーションモードを解除する。
	デジタイザの設定が違っている。	デジタイザの設定を正規にする。
	起動時にホストのRS-232C よりノイズが出力され、デジタイザの動作モードが変更されてしまった。	ホストより電源を立ち上げる。またアプリケーションが9100 コマンドのみ、もしくはデジタイザのコマンドを使用していない場合、Ｂ－８をＯＮに設定する。
画面上のポインタが振動する。(ジッタの発生)	デジタイザの位置が画面に近すぎる。	デジタイザの位置を画面から遠ざける。
	デジタイザの上にキーボードなどを置いている。	デジタイザの上からキーボードなどを取り去る。
	デジタイザの周囲にハードディスクなどの電磁場の発生させやすいものがある。	電磁場の発生させやすいものをデジタイザから遠ざける。
	ワイヤレスポインティングデバイスの電池が切れかかっている。	ワイヤレスポインティングデバイスの電池入れ替える。
ポインティングデバイスの動作が特定領域内だけ動かない。	デジタイザの設定がアプリケーション通りに設定されていない。	デジタイザの設定をアプリケーションに合わせてきちんと設定する。
	ワイヤレスポインティングデバイスの動作周波数が異なっている。	ワイヤレスポインティングデバイスと動作周波数を合わせる。
	エリアマッピングが有効になっている。	エリアマッピングを無効にする。
	その特定領域のみグリッドに不具合が発生している。	弊社修理となります。
スタイラスペンのサイドスイッチが認識出来ない。	ペン先が押されている。	ペン先を浮かす。
	サイドスイッチに機能が割り当てられていない。	TabletWorks コントロールパネルでサイドスイッチに機能を割り当てる。
	スタイラスペンの持ち方が斜めになりすぎている。	スタイラスペンをデジタイザに対し垂直になるように持つ。

問　　題	原　　因	解　決　方　法
Windows 上ではTabletWorks（Wintab）で動作しているが、特定アプリケーションでデジタイザとして使用できない。	TabletWorks コントロールパネル上で、Wintab 機能にチェックしていない。	TabletWorks コントロールパネルのWintab 機能にチェックを入れる。
	該当アプリケーションのデジタイザ機能を有効にしていない。	該当アプリケーションのデジタイザ機能を有効にする。
	その特定アプリケーションが、シリアルからダイレクトにデジタイザ入力をするアプリケーションである。	TabletWorks コントロールパネルで、デジタイザを無効にする、またはTabletWorks をアンインストールする。
	その特定アプリケーションは、Wintab v1.1 に対応したアプリケーションである。	Wintab 1.0 仕様に対応したアプリケーションを使用する、もしくは「Digitizer Technology Company LLC」の「Virtual Tablet Interface」（有償アプリケーション）を使用する。詳細は第３章のP3-6 を参照願います。
デジタイズ入力したデータが歪んでいる。実長が取れない。	TabletWorks コントロールパネル上で、Wintab 機能にチェックしていない。	TabletWorks コントロールパネルのWintab 機能にチェックを入れる。
	アプリケーションからデジタイザとして認識されていない。	該当アプリケーションのデジタイザ機能を有効にする。
	元々該当アプリケーションがWintab をサポートしていない。	Wintab に対応したアプリケーションを使用する。
	アプリケーション側のデジタイザの初期設定がきちんと行われていない。	アプリケーションのマニュアルを読み、デジタイザの初期設定を確実に行う。
	マウスとの共用モードを使用している。	デジタイザ単独モードを使用する。
筆圧が出ない。	筆圧非対応のアプリケーションを使用している。　もしくはこのドライバの筆圧に対応していないアプリケーションを使用している。	このWintab 機能に対応した筆圧対応のアプリケーションを使用する。
	筆圧に対応していないポインティングデバイスを使用してる。	筆圧対応スタイラスペンを使用する。
相対モードでしか動作しない。	設定が相対モードになっている。	設定を絶対モードにする。
34240 で動作していたソフトがDb6-2024 で動作しない。	出力フォーマットが異なる為。34240 はスモールフォーマットデジタイザの分類でしたが、DB6-2024 はラージフォーマットデジタイザに分類されます。この為、ASCII フォーマットの場合、34240 では最小出力桁数が4 桁となりますが、DB6-2024 では5 桁となります。出力桁数をカウントしている場合動作しなくなります。	ソフトウエアの入力桁数をDB6-2024 に対して変更する。
Macintosh 上のWindows で動作しない。	日本国内では Macintosh 上のWindows での動作はサポート致しません。	PC/AT 機のWindows で動作させる。

・EWS等との接続時の注意
EWS等と接続する際は、標準のケーブルだけでは接続できない事がございます。
場合によっては結線を変更する可能性もございますので、ご確認をお願いいたします。



付録C　DrawingBoard VIの仕様

・共通仕様

インターフェース	USB1.1準拠。 RS-232C/CCITT V.24規格に準拠。 USB/RS-232Cは排他的に使用可能。
測定精度	±0.254 mm　（標準品） ±0.0508 mm　（高精度型）
分解能	～12,700 lpi（500 lpmm）
ジッタ	1 LSB
検知高さ	～ 10.2 mm コードレスポインティングデバイス ～20.3mm コード付きポインティングデバイス
自己診断	CPU/RAM/ROMの自動テスト機能(起動時)
転送速度	1200～115,200 bps（シリアルインターフェース）
データ速度	～200pps（最大：フォーマットによる）
動作方式	電磁誘導方式
出力フォーマット	３２フォーマット
ポインティングデバイスのスイッチ	ポインティングデバイスのスイッチ寿命は100万回以上です。
エミュレーション	CalComp 3400、GTCO T5A、Summagraphics Microgrid
電源	・USB使用時、USBより供給。 ・RS-232C使用時、AC100V 50/60HzのACアダプタからDC 9Vに変換し供給　（別売オプション）
容量	USB: DC 5V/ 100mA（USBより供給） RS-232C: DC 9V/ 200mA（DCアダプタで供給）
EMC(電波障害)	FCC-B、CE-B、VCCI Class B
動作温度	5～46℃
保管温度	-55～75℃
湿度	10～95%、(結露しないこと)
動作高度	海抜3,077mまで

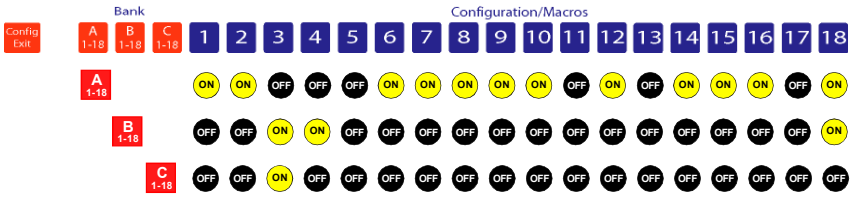
この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明に従って正しい取り扱いをして下さい。　VCCI-B

・各サイズ概要

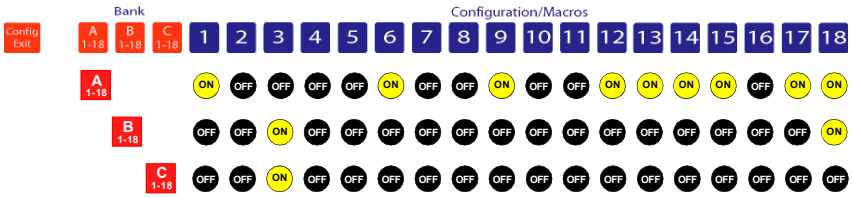
モデル	認識エリア	本体サイズ	重量
DB6-1212	305mm x 305mm	371mm x 404mm	1.9 kg
DB6-1218	305mm x 457mm	404mm x 526mm	4.3 kg
DB6-2024	508mm x 610mm	737mm x 864mm	5.9 kg
DB6-2436	610mm x 914mm	826mm x 1168mm	8.6 kg
DB6-3648	914mm x 1219mm	1130mm x 1524mm	13.6 kg
DB6-4460	1117mm x 1524mm	1333mm x 1753mm	18.2 kg

・初期設定

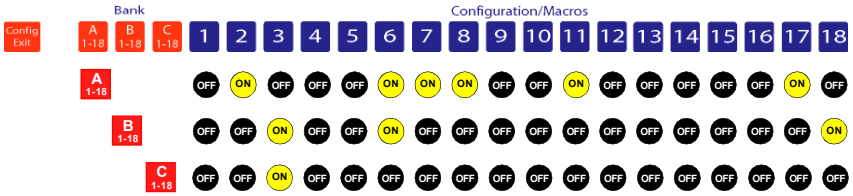
1. Default



2. SAVE 2



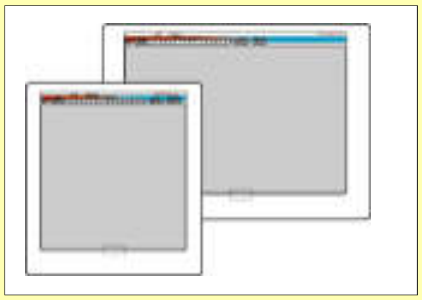
3. SAVE 3



付録Ｄ　既存機種との比較

・デジタイザ比較

A4, A3 サイズ



	DrawingBoard III	DrawingBoard VI
サイズ	A4 スクエアサイズ	A4 スクエアサイズ
型番	34120	DB6-1212
認識エリア(mm)	304.8 x 304.8mm	304.8 x 304.8mm
本体サイズ(mm)	406 x 378 mm	404 x 371 mm
重量 (Kg)	1.5 Kg	1.9 Kg

サイズ	A3 サイズ	A3 サイズ
型番	34180	DB6-1218
認識エリア(mm)	457.2 x 304.8mm	457.2 x 304.8mm
本体サイズ(mm)	531 x 406 mm	526 x 404 mm
重量 (Kg)	3.6 Kg	4.3 Kg

A2 サイズ

サイズ	A2 サイズ	A2 サイズ
型番	34240	DB6-2024
認識エリア(mm)	609.6 x 457.2mm	609.6 x 508mm
本体サイズ(mm)	683 x 560 mm	864 x 737 mm
重量 (Kg)	5.8 Kg	5.9 Kg

A4 ～ A2 共通

RS-232C	1 ポート標準	1 ポート標準 (使用にはオプション必要)
転送速度 (BPS)	300BPS ～ 19,200BPS	1,200BPS ～ 115,200BPS
USB	不可	1 ポート標準 (USB1.1 仕様)
電源	12V DC アダプタより供給	USB より供給 (DC5V) (RS-232C 使用時 DC9V アダプタ[オプション] 必要)
CAD 対応フォーマット	３２フォーマット＋ 他社エミュレーション１１種	３２フォーマット
マウスフォーマット	２フォーマット	非対応
サポートコマンド	CalComp 9100, CalComp2000, SummagraphicsMM, 他社コマンド３種	CalComp 9100, CalComp2000, SummagraphicsMM
RoSH 対応	非対応	対応

A1, A0, B0 サイズ

	DrawingBoard IV & V	DrawingBoard VI

A1 ～B0 共通	DrawingBoard IV & V 共通	DrawingBoard VI
サイズ	A1 サイズ	A1 サイズ
型番	DB5-2436/DB4-2436	DB6-2436
認識エリア(mm)	914 x 610mm	914 x 610mm
本体サイズ(mm)	1168 x 826 mm	1168 x 826 mm
重量 (Kg)	8.6 Kg	8.6 Kg

サイズ	A0 サイズ	A0 サイズ
型番	DB5-3648/DB4-3648	DB6-3648
認識エリア(mm)	1219 x 914mm	1219 x 914mm
本体サイズ(mm)	1524 x 1130 mm	1524 x 1130 mm
重量 (Kg)	13.6 Kg	13.6 Kg

サイズ	B0 サイズ	B0 サイズ
型番	DB5-4460/DB4-4460	DB6-4460
認識エリア(mm)	1524 x 1117mm	1524 x 1117mm
本体サイズ(mm)	1753 x 1333 mm	1753 x 1333 mm
重量 (Kg)	18.2 Kg	18.2 Kg

A1 ～B0 共通	DrawingBoard V	DrawingBoard VI
RS-232C	1 ポート標準	1 ポート標準 (使用にはオプション必要)
転送速度 (BPS)	1,200BPS ～ 115,200BPS	1,200BPS ～ 115,200BPS
USB	1 ポート標準 (USB1.1 仕様)	1 ポート標準 (USB1.1 仕様)
電源	USB より供給 (DC5V) (RS-232C 使用時 DC9V アダプタ[同梱] 必要)	USB より供給 (DC5V) (RS-232C 使用時 DC9V アダプタ[オプション] 必要)
CAD 対応フォーマット	３２フォーマット	３２フォーマット
サポートコマンド	CalComp 9100, CalComp2000, SummagraphicsMM	CalComp 9100, CalComp2000, SummagraphicsMM
RoSH 対応	非対応	対応

A1 ～B0 共通	DrawingBoard IV	DrawingBoard VI
RS-232C	1 ポート標準	1 ポート標準 (使用にはオプション必要)
転送速度 (BPS)	300BPS ～ 38,400BPS	1,200BPS ～ 115,200BPS
USB	オプション	1 ポート標準 (USB1.1 仕様)
電源	12V DC アダプタより供給	USB より供給 (DC5V) (RS-232C 使用時 DC9V アダプタ[オプション] 必要)
CAD 対応フォーマット	３２フォーマット	３２フォーマット
サポートコマンド	CalComp 9100, CalComp2000, SummagraphicsMM	CalComp 9100, CalComp2000, SummagraphicsMM
RoSH 対応	非対応	対応

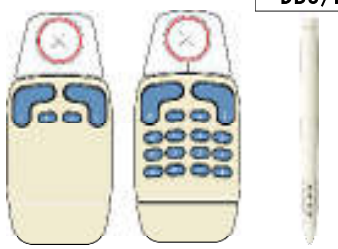
D

既存機種との互換性

・ポインティング
デバイス比較

・ワイヤレス
カーソル
ペンスタイラス

DB3/4/5/6 共用可能

DrawingBoard III/IV/V	DrawingBoard VI
DB3/DB4/DB5/DB6 	

・コード付
スタイラスペン

DB6 用は専用

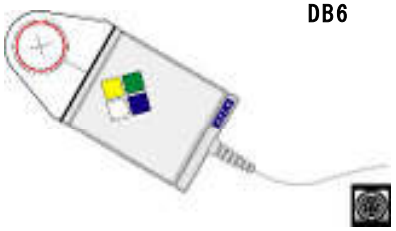
コート付きポインティングデバイスのコネクタのピン配置が異なります。

DB3/DB4/DB5	DB6

・コード付
4 ボタンカーソル

DB6 用は専用

コート付きポインティングデバイスのコネクタのピン配置が異なります。

DB3/DB4/DB5	DB6 

・コード付
16 ボタンカーソル

DB6 用は専用

コート付きポインティングデバイスのコネクタのピン配置が異なります。

DB3/DB4/DB5	DB6

DrawingBoard IV	DrawingBoard VI

・高精度カーソル

DB6 用は専用

コート付きポインティングデバイスのコネクタのピン配置が異なります。

DB4	DB6

お問い合わせ

■ コールセンター
〒108-0075 東京都港区港南2-13-29
キヤノン港南ビル3F
TEL 03-6719-9621　FAX 03-6719-8414

■ サプライ受注センター
〒108-0075 東京都港区港南2-13-29
キヤノン港南ビル8F
TEL 0120-196-133 / FAX 0120-196-134

DrawingBoard VI ユーザーズマニュアル
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社
第１　版　平成19年3月1日
第1.01版　平成19年3月27日
第1.02版　平成19年5月18日
第1.03版　平成19年7月20日
第1.04版　平成19年11月20日
第1.05版　平成23年6月8日
第1.06版　平成24年2月20日
第1.07版　平成25年2月27日

・本マニュアルの無断転載を禁じます。
・この製品、マニュアルの仕様は予告なく変更する場合があります。